

平成21年度 財団法人横浜市青少年育成協会 事業報告

青少年4施設の指定管理者4年目となる平成21年度は、新法人への移行準備の年としても、大変重要な意味を持つ年でした。

次期指定管理者獲得を目標に、これまでの成果を検証し青少年育成の実績を示していく年として、自然体験や科学体験をはじめとする様々な体験機会を提供するための事業、並びに青少年や青少年活動を支える人材育成事業について、次のような新しい取り組みを4施設の間での連携により実施しました。

まず、高校生が小・中学生とその保護者を対象として自然科学体験の場を提供する「よこはまサイエンスプログラム事業」を、新設された横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校と連携して実施しました。この他にも、夏休みに大学生が地域の小学生から高校生の勉強を見る活動のきっかけ作り等を行うことにより、青少年育成活動の担い手が大学生や高校生の青年層にまで広がりました。

また、高校生に社会体験機会を提供する事業として、高校生による高校生のための「ヨコハマ・ハイスクール・ミュージック・フェスティバル」においては、従来は照明や音響・映像などの音楽部門だけであったものを各種専門学校の協力を得てモデル部門・ヘアメイク部門への分野拡張に取り組むことで、スタッフとして関わった青年たちに幅広い社会体験の機会を提供することができました。

更に、若者の就労支援に関しては、「よこはま型若者自立塾」の参加者に対して金沢区内の海浜地域での就労体験の機会を提供しました。

なお、青少年活動を支える人材育成においては、青少年の居場所に関わる研修や、指導者・育成者に関わる講座等の数を倍増させ、より多くの大人が青少年育成活動に興味関心を深める機会を増やすとともに、青少年育成団体や環境保全活動団体等との連携による自然体験プログラムをモデル実施することで青少年育成に関係する団体相互のネットワークづくりを図りました。

これらの取り組みの結果、指定管理4施設での年間利用者は延べ約52万人、事業参加者は延べ約41万人、また、放課後キッズクラブの参加者は延べ約32万人となりました。

新法人への移行に関しては、これまで中期的な事業の柱であった、A：放課後児童育成、B：青少年の自立支援、C：青少年のための居場所づくり、D：青少年の健全育成、E：指定管理者としての実績づくり、F：新公益法人への移行、G：財務・組織基盤の充実・強化、の7項目に沿って実施していた協会事業を、「団体の目的」、「事業の性質・内容」、「財務」、「組織」等の公益認定の基準に沿って分析し、新法人における定款案及び事業体系案の整備等を行いました。

今後も、青少年育成の専門的な公益法人として、青少年に様々な体験を提供し、その成長を促すとともに、すべての青少年が周囲の人々から見守られ、人のつながりの中で成長できる社会を醸成することに、協会全体で取り組んでまいります。

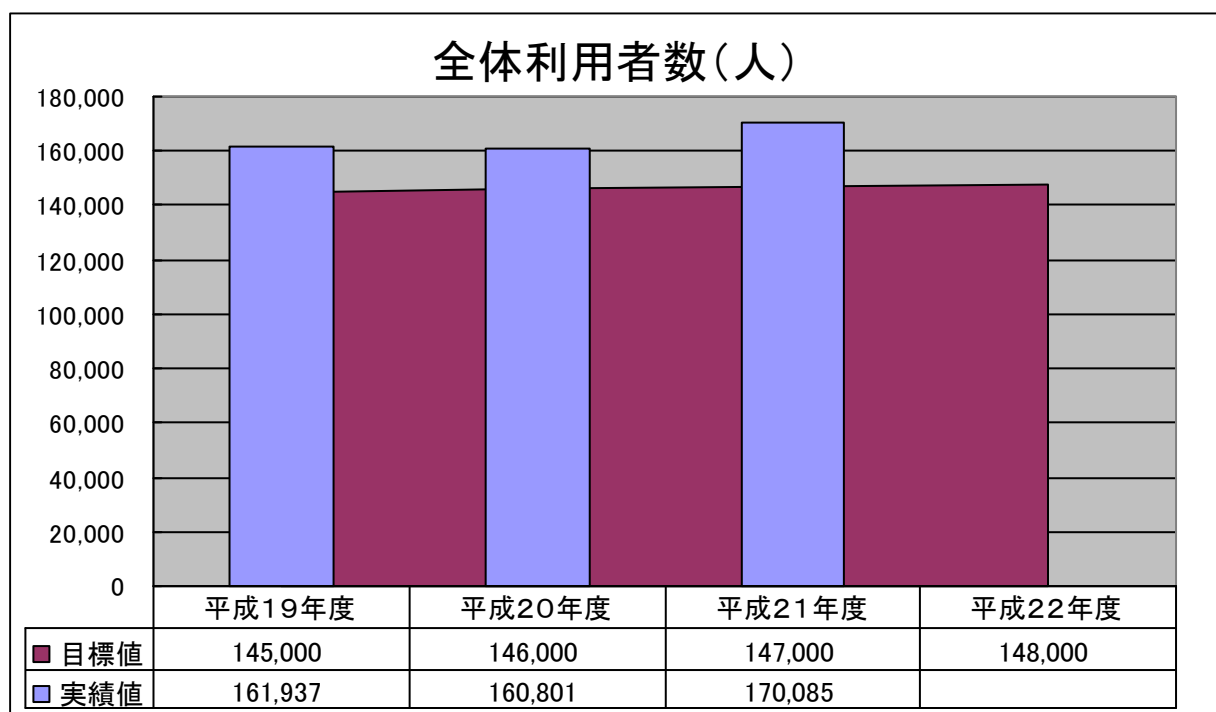
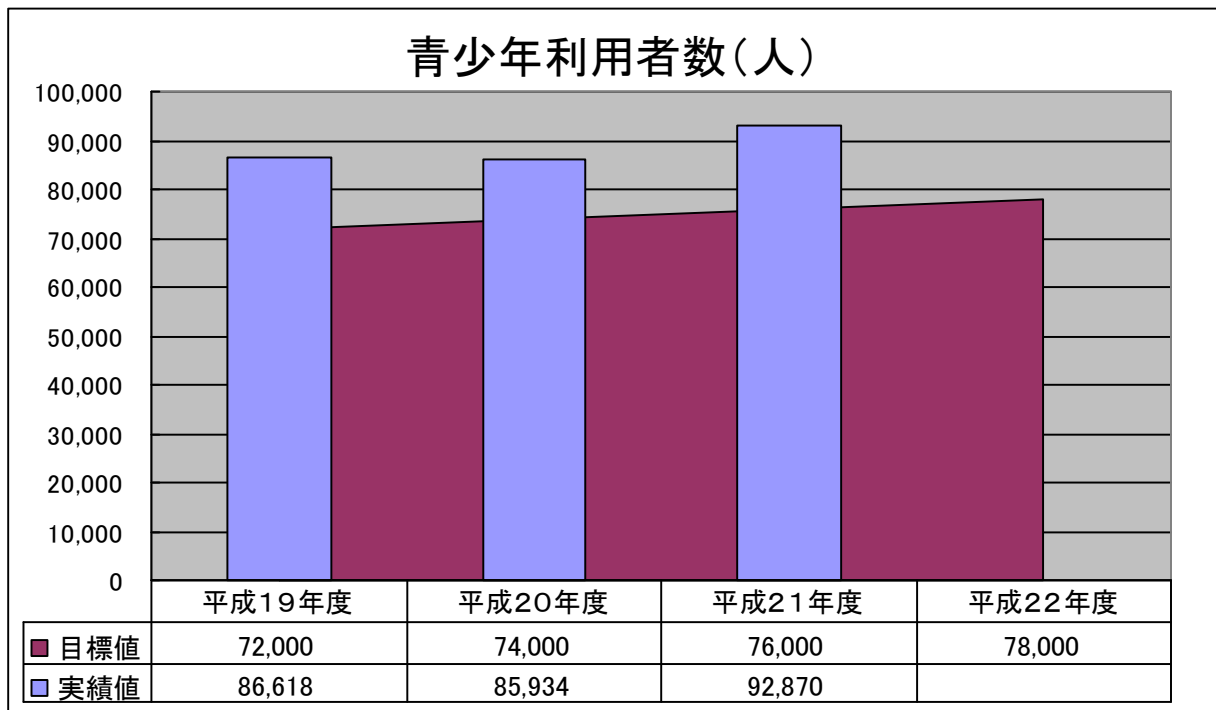
協約目標の達成

平成19年4月から4か年の期間で横浜市と締結した「協約」の3年次目にあたる平成21年度も、単に協約事項に定めた目標の達成を図るのではなく、横浜市が協会に期待する役割を十分認識し取り組むことにより公益的使命を果たしてきました。

協約事項1

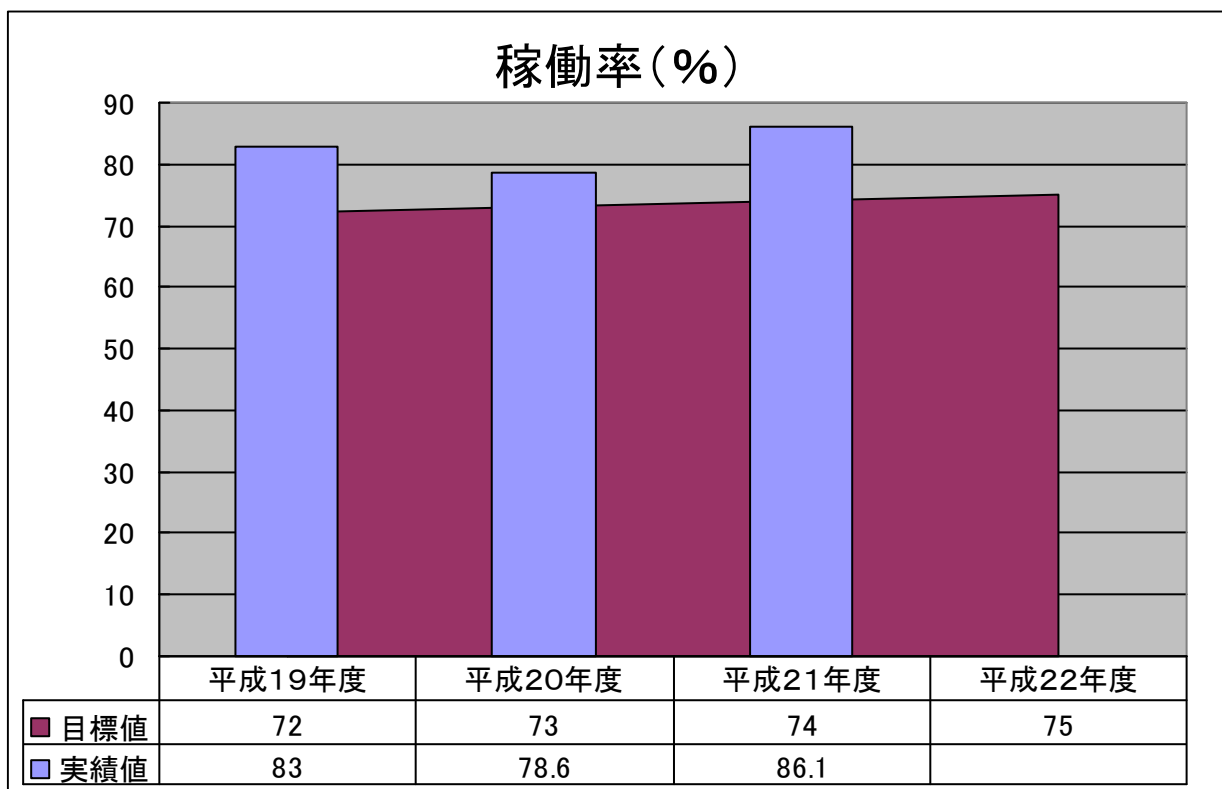
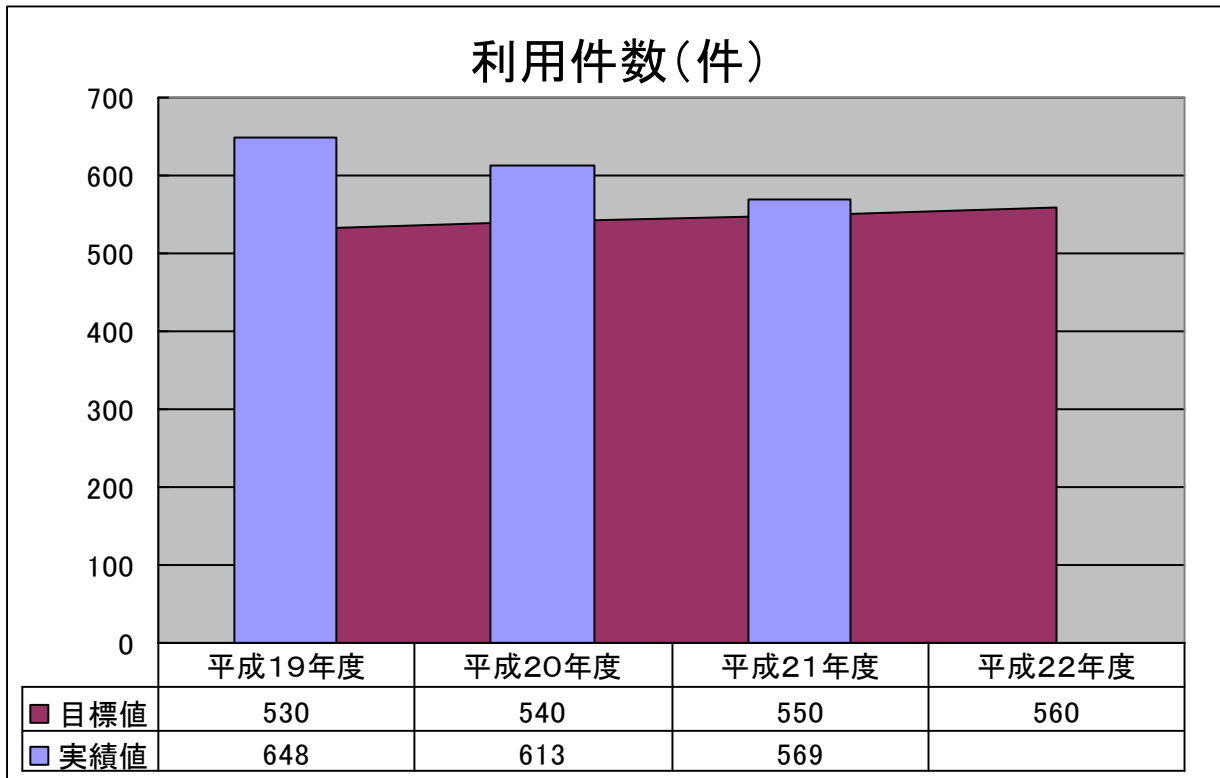
指定管理者として管理運営を行っている4施設の利用者の増加（4施設10%以上）を図ります。また、放課後キッズクラブ事業の利用率の増加（10%以上）を図ります。

【横浜市青少年交流センター】

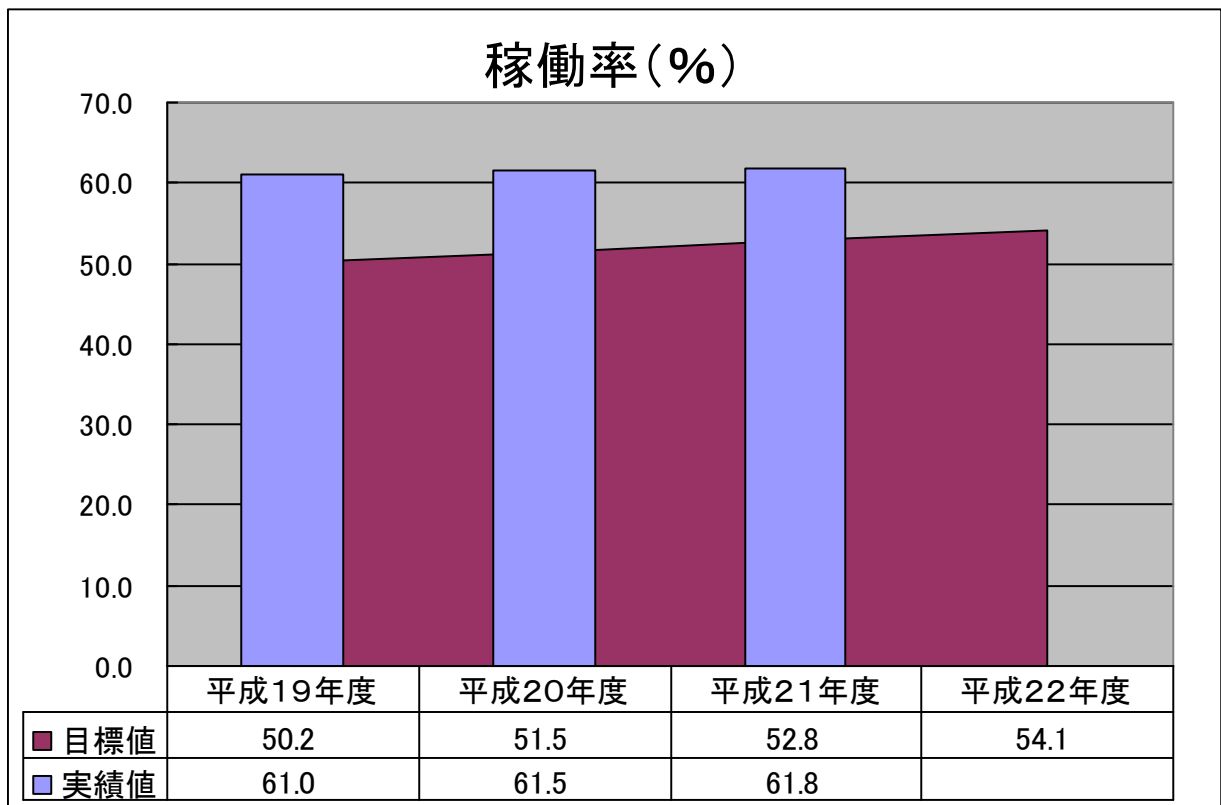
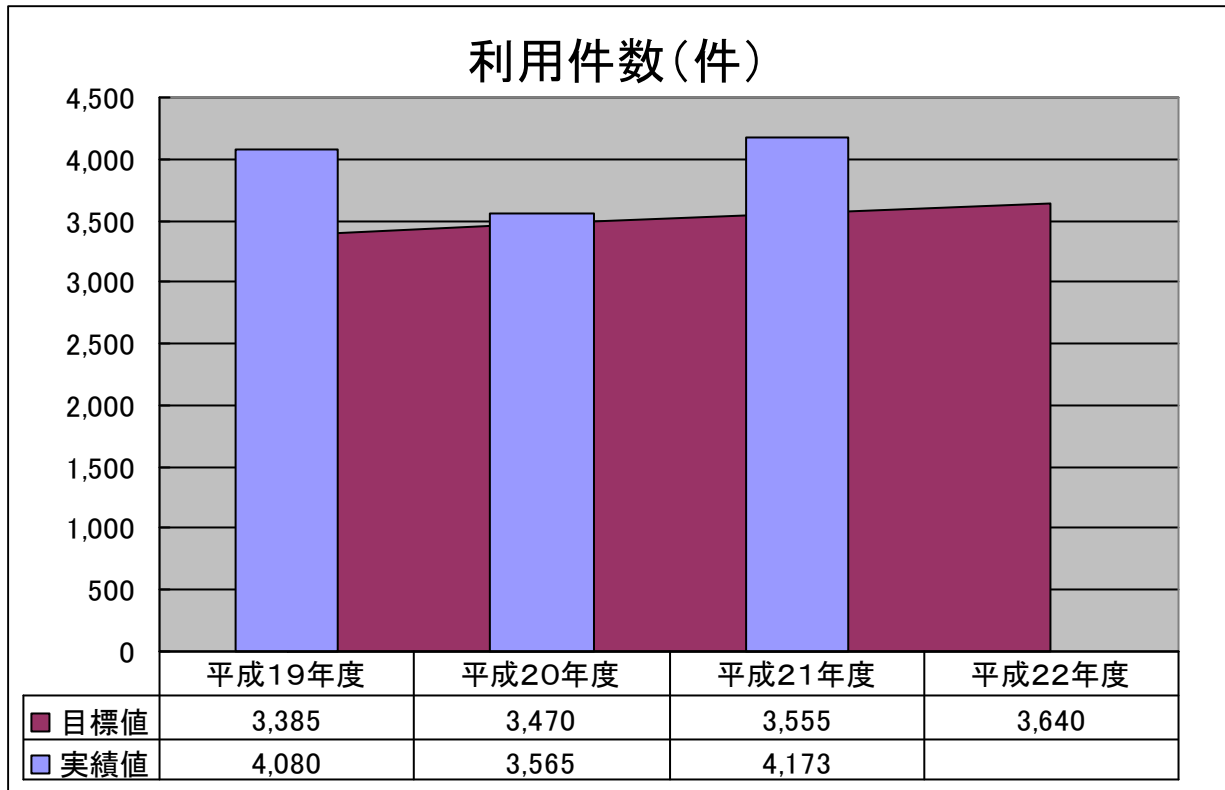


Ⅱ 協会の事業

【横浜市野島青少年研修センター】

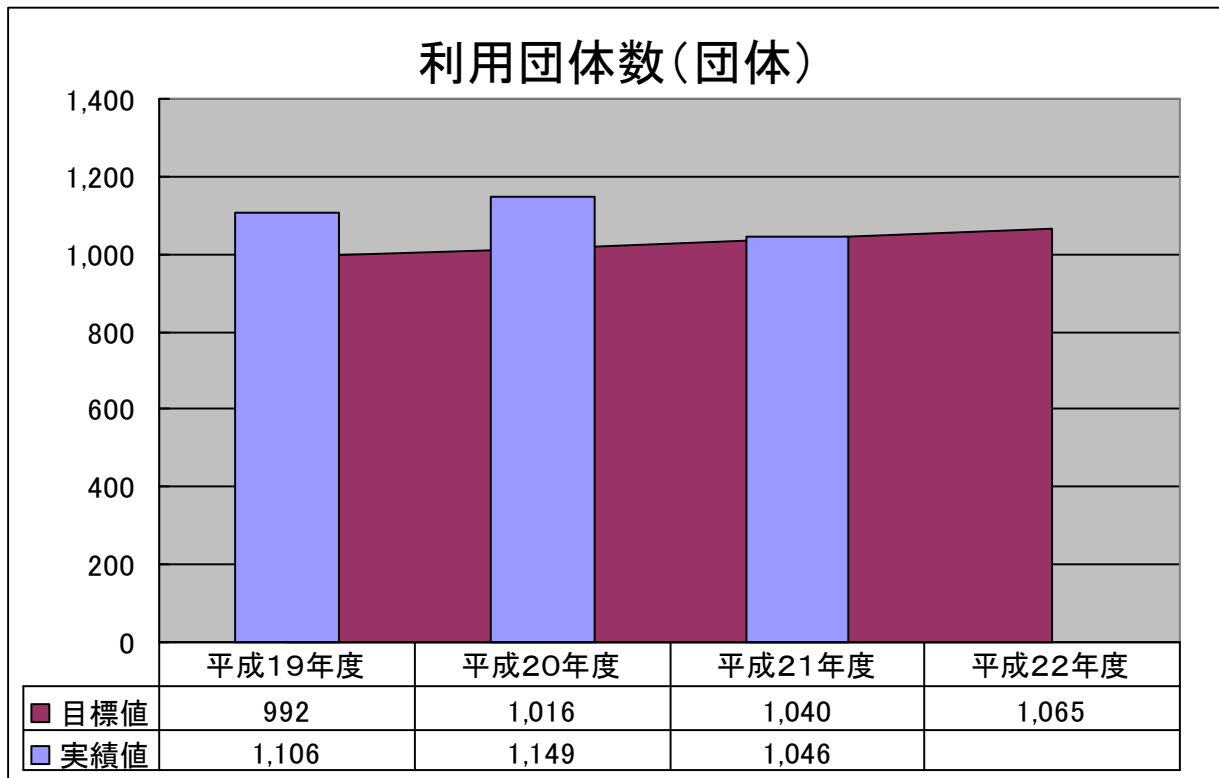


【横浜市青少年育成センター】

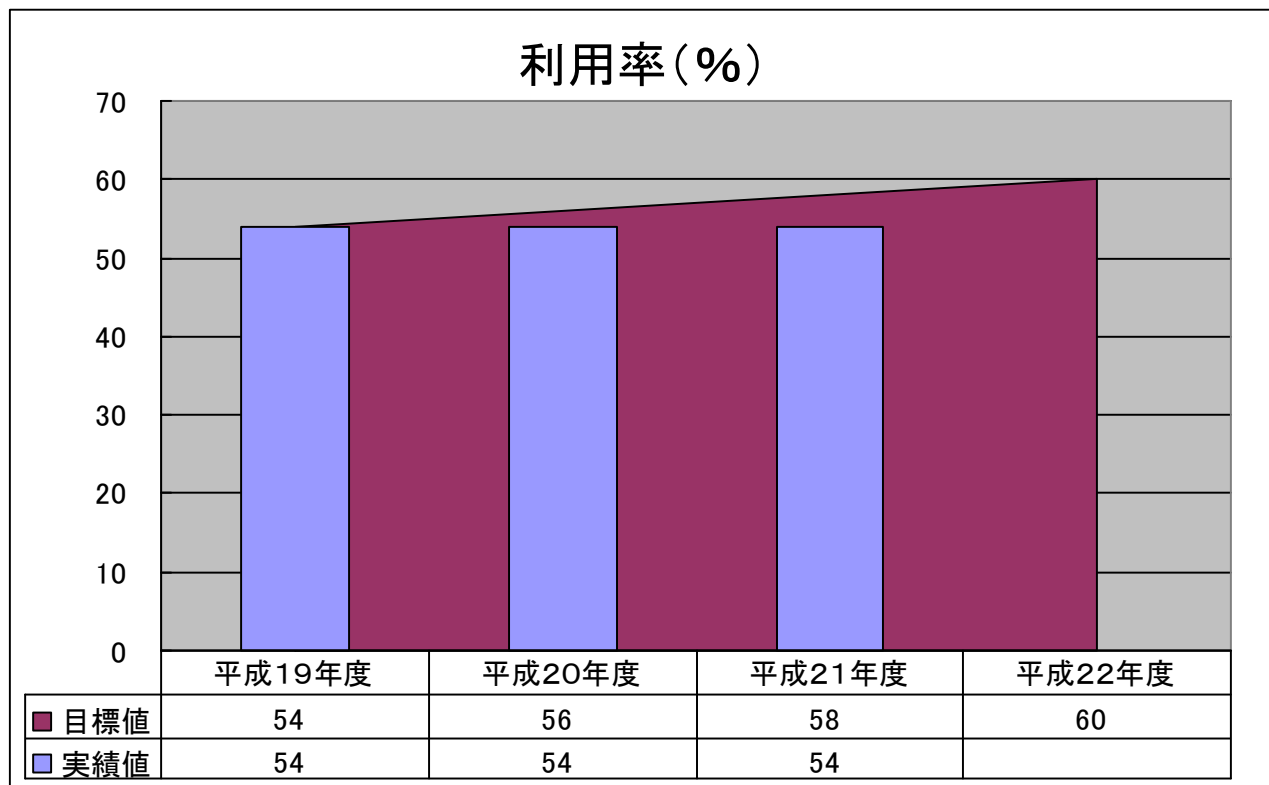


Ⅱ 協会の事業

【横浜こども科学館】



【放課後キッズクラブ】

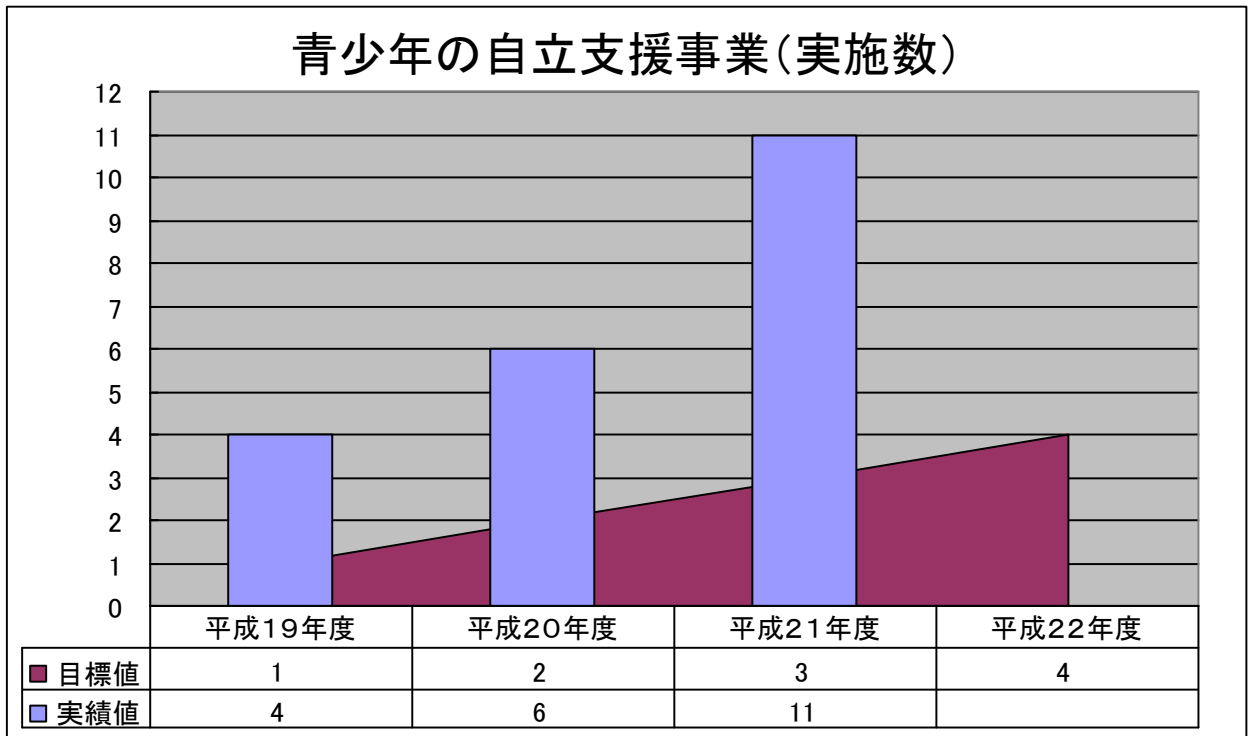


協約事項1に関しては、放課後キッズクラブの利用率（登録率）が協約の目標値に達しませんでした。主な理由としては、参加する子どもの人数が増加しキッズクラブに与えられたスペースでは、子どもたちが安全に過ごすことが難しく、積極的な登録（利用）の呼びかけを控えなければならないクラブが増えていることが原因だと思われます。今後もこの状況が続くことが予想されます。

協約事項 2

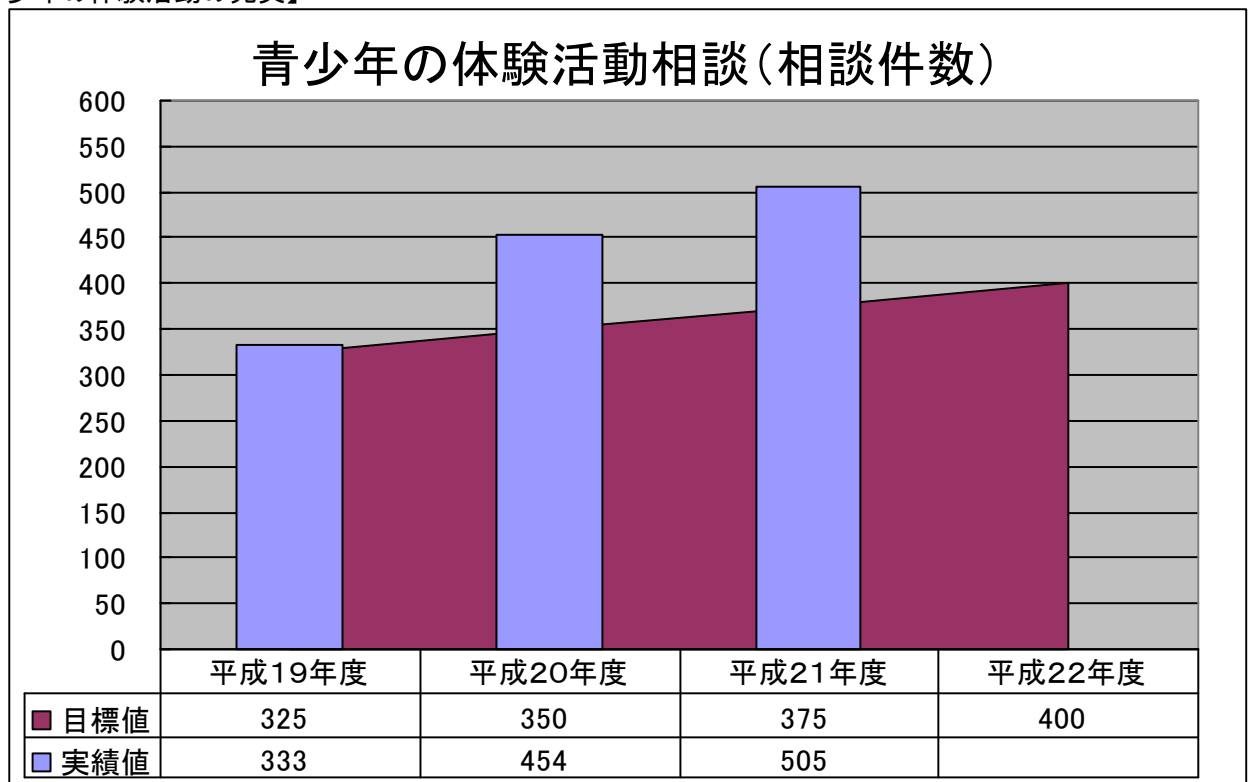
青少年の自立支援事業を4事業以上実施します。また、青少年の体験活動に関する相談件数を400件以上（コーディネート件数63%以上）、青少年指導者等の講座への参加者数を380人以上とします。

【青少年の自立支援事業】



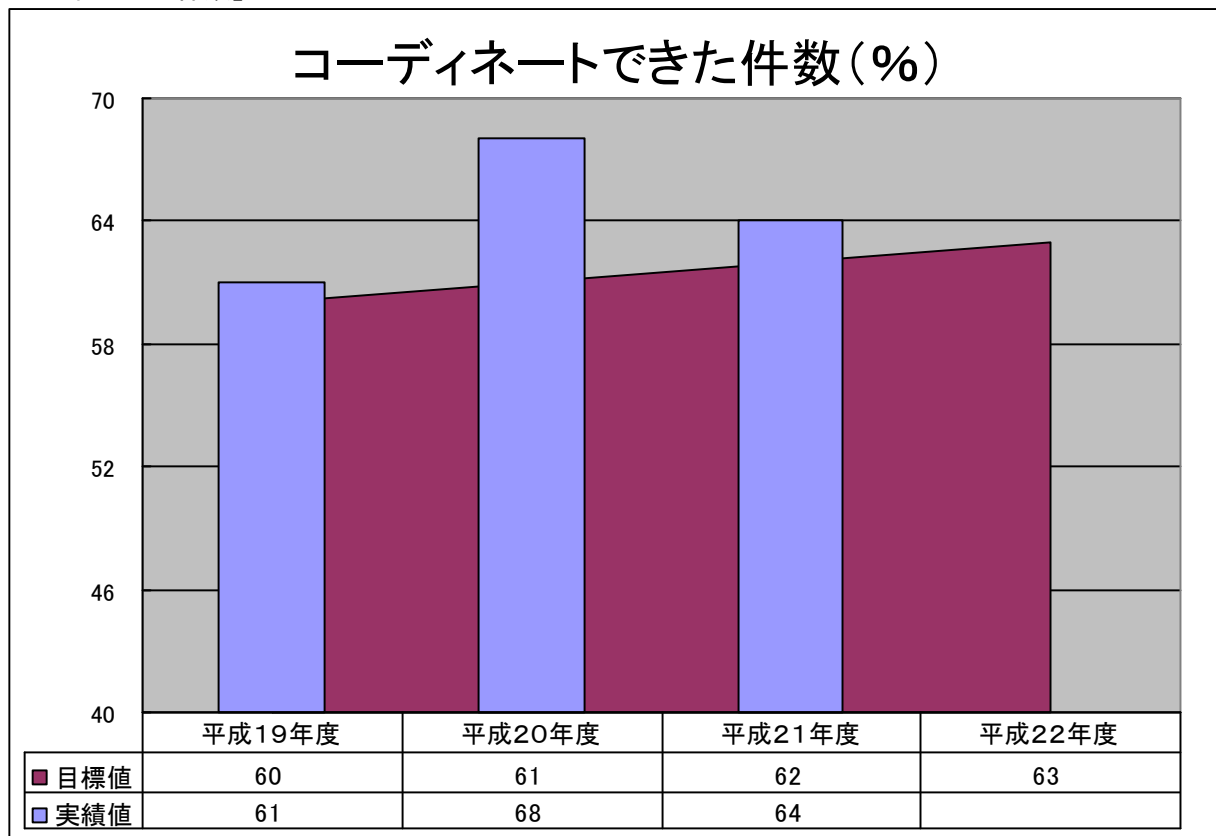
平成19年度から始めた課題のある青少年の自立支援事業の実績を基に、市内で若者自立支援に取り組む団体と協働し、協会の運営する青少年施設で就労体験事業やスタッフ体験事業を新規に開催しました。

【青少年の体験活動の充実】

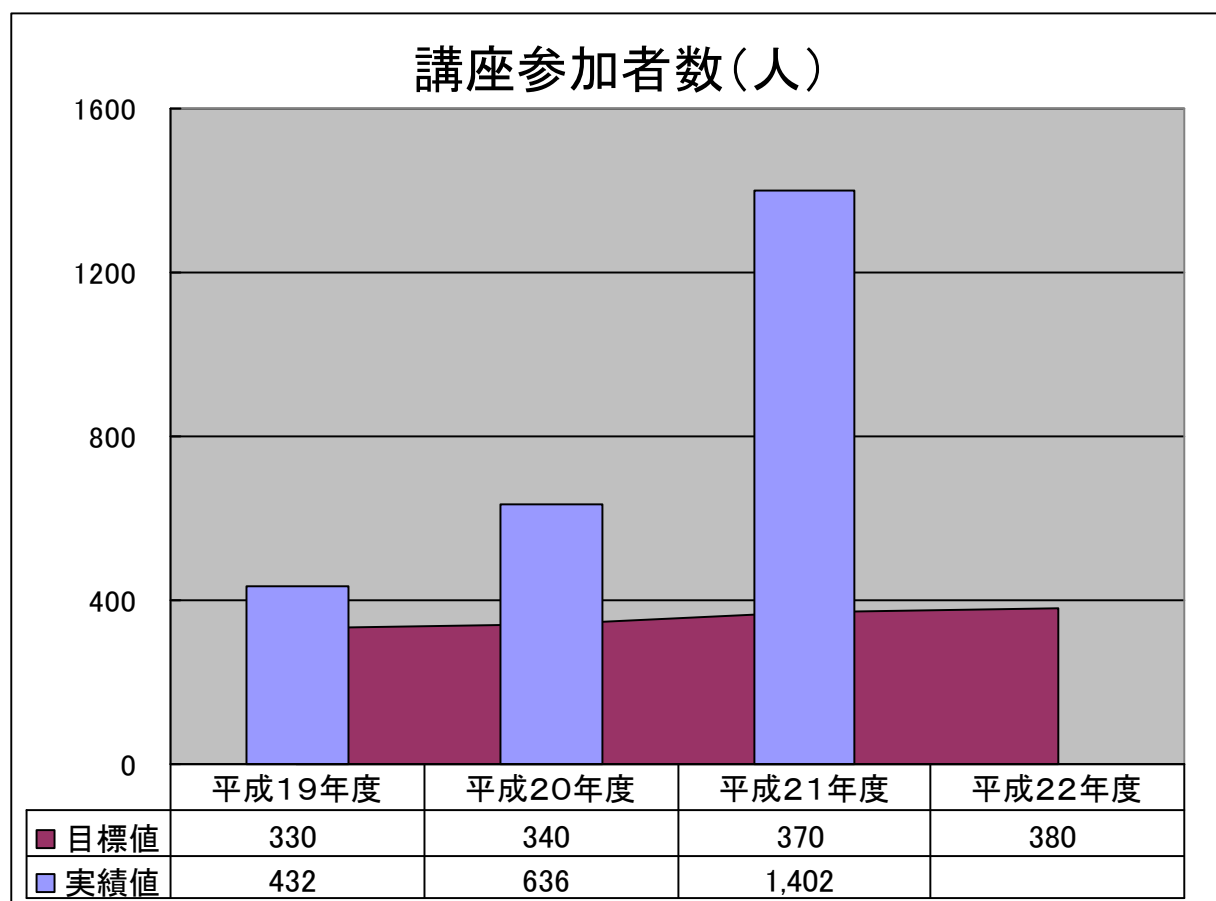


Ⅱ 協会の事業

【コーディネート件数】



【青少年指導者等の活動支援】

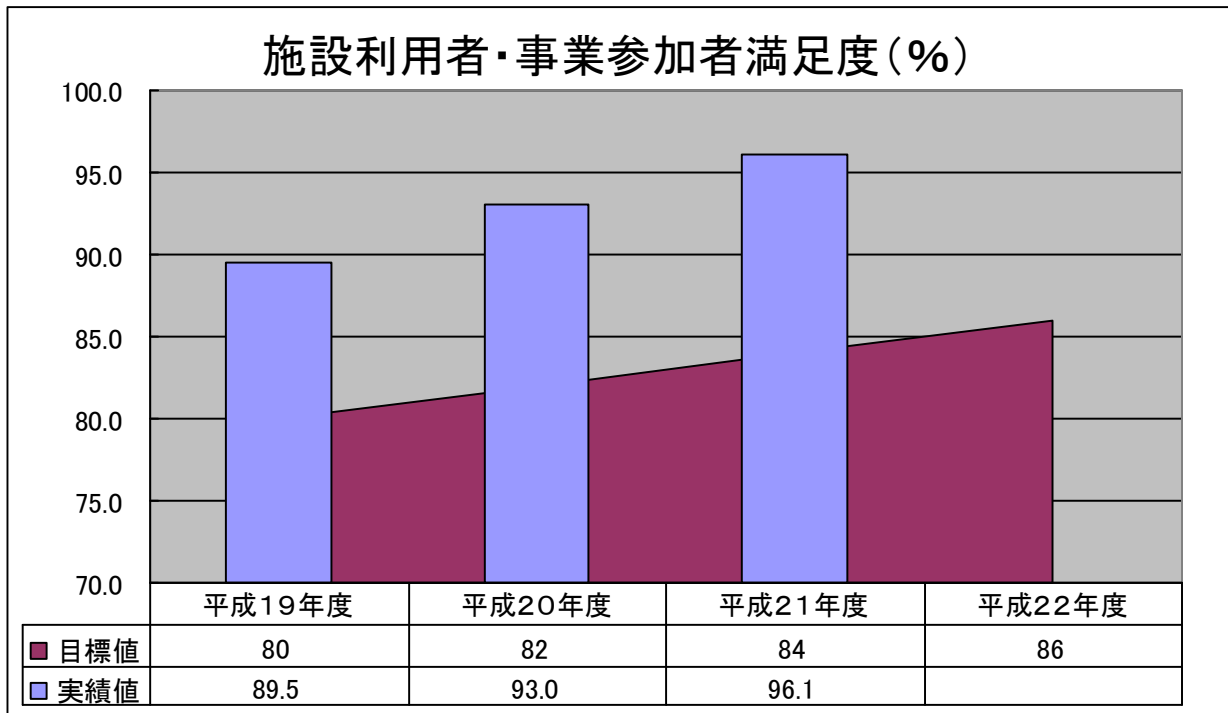


青少年を取り巻く新たな課題へ対応する為に新規講座を開催するなど、講座全体の開催数が前年度の2倍以上(12事業→28事業)になりました。

協約事項 3

施設利用者、及び事業参加者の満足度（目的達成率）を86%以上とします。

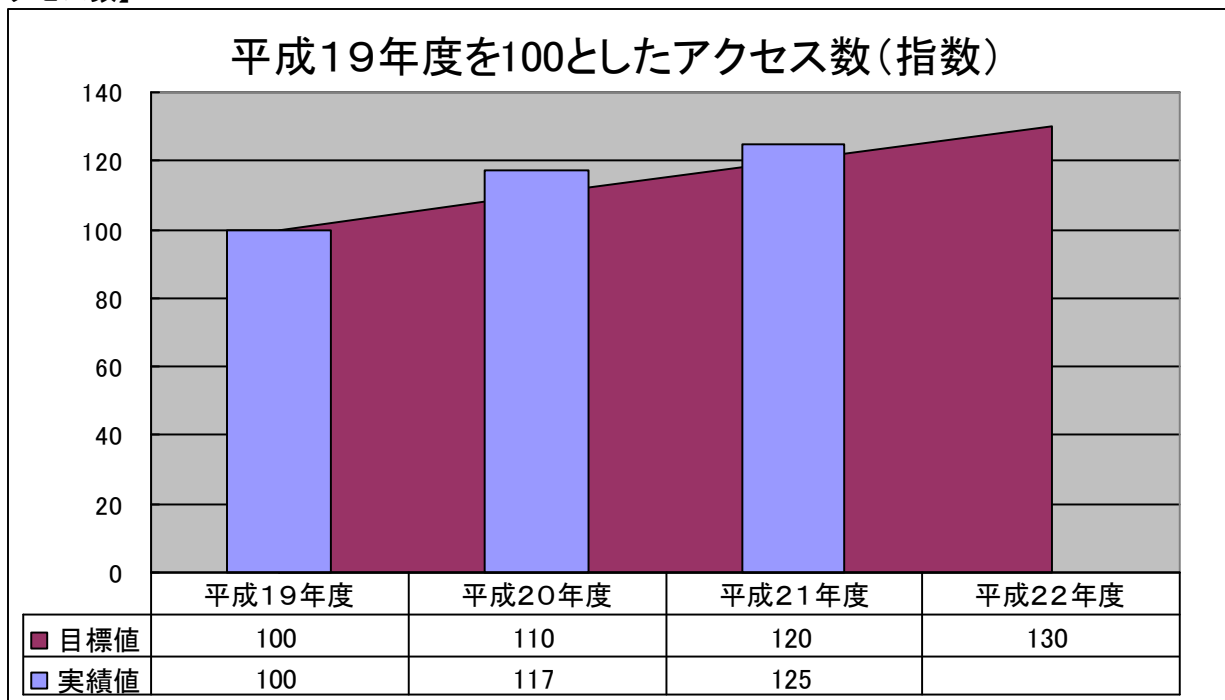
【満足度（目標達成率）】



協約事項 4

ホームページへのアクセス数を130（指数）以上とします。また、利用者の声の一層の反映を図ります。

【アクセス数】



【利用者の声の反映】

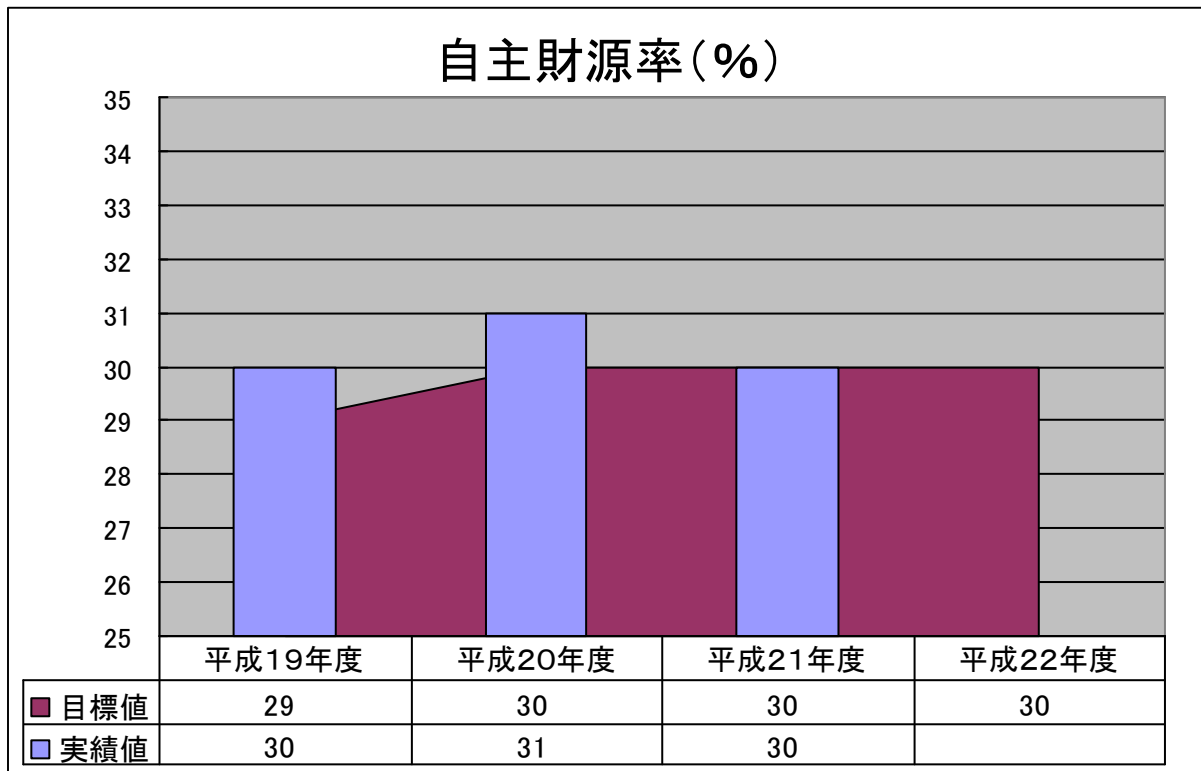
横浜の青少年施策の動向や青少年が抱える課題、及び協会が目指す青少年育成について、広く市民が情報を取得できるよう努めました。更に「施設の情報を充実させてほしい」という声を反映し、指定管理施設ごとのページ充実に向けた準備を行いました。

II 協会の事業

協約事項5

自主財源比率を30%以上とします。

【自主財源率】



目標達成に向け、利用料金、事業収入、会費収入、ボランティア育成基金などの自主財源の確保を図りましたが、平成21年度は、新型インフルエンザ等の影響により利用料金、事業収入が大幅に減少しました。

協約事項6

職員の意欲を引き出し、事業の充実や職員のスキルアップを図ることのできる新たな組織・人事給与制度を導入します。

新たな組織・人事給与制度の導入（人材育成、人事考課制度の導入）

組織・人事給与検討委員会の提言に基づいて組織改革を進め、平成21年度をもって計画どおり達成しました。給与制度への人事考課導入は、平成20年度から管理職のMBOを本格実施しています。しかし、公益法人移行への対応等で給与制度への導入までは至りませんでした。

組織強化

1 組織改革

協会管理職による「組織・人事給与改革委員会 (H19)」から提言された「年次別の組織改革案」をもとに、新公益法人への移行や次期指定管理者獲得の課題を中心に検討し、本部機能を強化する事務局組織改革を更に進めました。

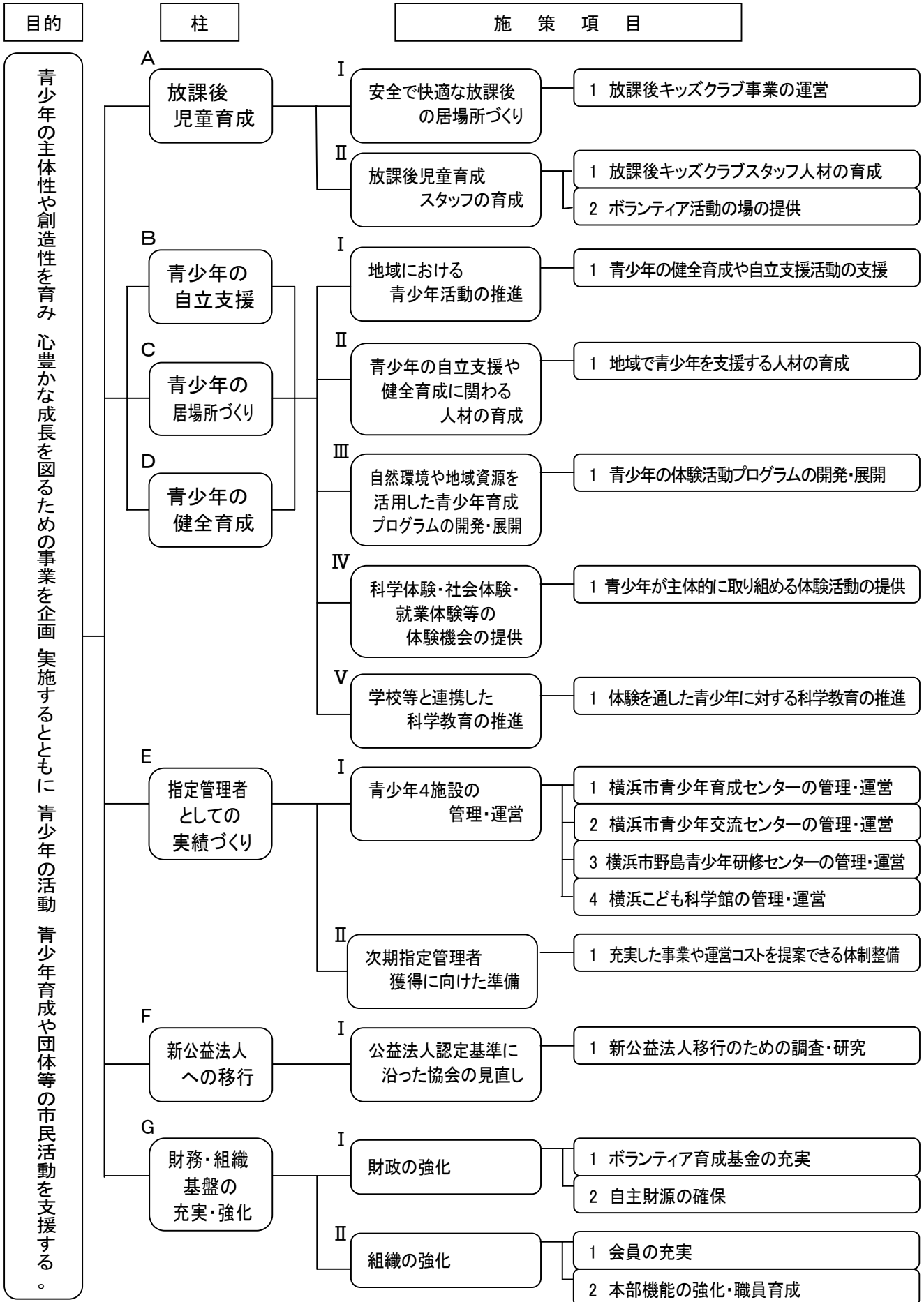
2 指定管理施設（青少年4施設）の外部評価（PDCAサイクルの充実）

青少年4施設の「青少年育成事業」という専門性や施設特性等を持つ指定管理業務の状況について、「横浜市指定管理者第三者評価に関するガイドライン」に基づき第三者評価委員会による評価を受けました。その評価結果を受け、更なる業務改善の取り組みやサービス向上に努めました。

3 職員研修の充実

職員の資質向上をめざし、外部研修への職員の積極的な参加を図るとともに、時給職員を含む全職員を対象とした人権研修（前期9回、後期4回）や各職場単位での人権研修（年1回）個人情報保護研修、職員研究交流集会（2回）を実施した他、OJTを充実しました。

平成21年度 事業体系図



A-I 安全で快適な放課後の居場所づくり

1 放課後キッズクラブ事業の運営（Ⅱキッズクラブの運営：資料集P13）

20校の放課後キッズクラブでは、在籍児童の54.2%（20校の平均値）が登録しました。

この1年間で各放課後キッズクラブ月平均約1,361人、総計326,106人が利用し、各放課後キッズクラブで実施したプログラム数は、毎月平均約24回、年間総計5,665回でした。

また、室内遊びやクラフトをテーマにした研修会を実施するとともに、放課後キッズクラブ全体のドッジボール大会（参加児童数548人）を開催しました。

また、主任指導員会議（11回）・指導員会議（6回）・合同会議3回等を活用し活動プログラムの紹介や情報交換を行いました。

A-II 放課後児童育成スタッフの育成

1 放課後キッズクラブスタッフ人材の育成（Ⅱキッズクラブ事業：資料集P14）

横浜市こども青少年局放課後児童育成課が実施している放課後三事業^{※1} 538か所のスタッフを対象とした110講座の研修を企画・運営し、1,576人が参加しました。

※1 放課後三事業：①はまっ子ふれあいスクール(280)・②放課後児童クラブ(学童保育)(189)・③放課後キッズクラブ(69)

2 ボランティア活動の場の提供

放課後三事業でのボランティア活動を希望する青年等を対象とした研修、及び現場実習を行いました。

BCD-I 地域における青少年活動の推進

1 青少年の健全育成や自立支援活動の支援（Ⅰ本部事業：資料集P6）

地域における様々な青少年の健全育成や自立支援活動の支援・推進をする為に、青少年育成に関する情報提供を充実し、ホームページ、及び情報紙（はまユース情報 年6回、YOKOHAMA EYES 年4回、みみよりサイエンス 年4回）による情報提供を行いました。

また、横浜市内で青少年育成に取り組む機関や団体をはじめ、環境活動や科学推進団体・機関等、青少年の体験活動の展開に活用できる資源のネットワークを構築や青少年の体験活動の成果を共有するための発表の場を持ちました。

さらに、地域支援事業として「十日市場中学校地域交流事業」、「洋光台サイエンスクラブ」の2事業を実施した他、青少年4施設並びに放課後キッズクラブ事業もできる限り地域連携で実施することに努め、青少年活動への市民の参画を図りました。

BCD-II 青少年の自立支援や健全育成に関わる人材の育成

I 地域で青少年を支援する人材の育成（Ⅰ本部事業：資料集P8）

大人も子どもも共に育つ地域づくりの推進を図るため、子どもの成長に関心をもち、見守り、積極的に支援できる人材を育成するための講座・研修の企画及び、実践機会を提供しました。（ユースコーディネーター研修、遊びのボランティア育成研修）なお、講座・研修については、関係機関・団体と連携し協会の運営する青少年施設を中心に実施しました。

また、青少年の地域活動の充実を目指し、地域で開催される研修会・講習会等に講師を派遣しました。

II 協会の事業

BCD-III 自然環境や地域資源を活用した青少年育成プログラムの開発・展開

I 青少年の体験活動プログラムの開発・展開（I本部事業：資料集P8）

青少年が自立心や社会性を身につけるために有効な、集団での体験機会を提供するために、市内外の自然環境や地域資源を活用した体験活動プログラム（海ふれあい体験事業、よこはまカニ救出大作戦、横浜の海・みなと体験プログラム、サイエンスキャンプ）を関係機関・団体と連携し、協会が運営する青少年施設等で展開しました。

また、横浜市内立小中学校の個別支援学級に通う児童・生徒を対象に体験活動の場を提供するとともに、青年ボランティアに児童・生徒への理解を深めてもらうことを目的に、団体（実行委員会）と協働で野島クリスマスキャンプを実施しました。

BCD-IV 科学体験・社会体験・就業体験等の体験機会の提供

I 青少年が主体的に取り組める体験活動の提供（I本部事業：資料集P9）

青少年が自主的に活動し、科学体験、社会体験等の様々な体験を通して成長して行けるよう、サイエンスクラブ、ヨコハマ・ハイスクール・ミュージック・フェスティバル2009、開港150周年記念事業FUNEプロジェクト、高校生水源林ボランティア、交流センターのインターンシップの受け入れ、こども科学館における学芸員実習の受け入れなど青少年に体験機会を提供しました。

また、個々の興味に応じた青少年体験活動をコーディネートするとともに、青少年の多様なニーズに応えるため、大学や企業、地域等の取り組みを調査し幅広い体験活動情報を収集しました。

BCD-V 学校と連携した科学教育の推進

I 体験を通じた青少年に対する科学教育の推進（I本部事業：資料集P10）

ライフサイエンス都市・横浜を担う次世代を育成することを目的に、小学校高学年から中学生に向けた「科学体験プログラム」を育成協会と横浜サイエンスフロンティア高校との連携により実施しました。

平成21年8月から平成22年2月の期間に、こども科学館や野島青少年研修センター、横浜サイエンスフロンティア高校の両施設を有効に活用する形で連携事業（天文教室、自然観察、ロボット製作他）を行いました。

E-I 青少年4施設の管理・運営

I 青少年4施設の管理運営

青少年4施設の指定管理者として、施設特性を踏まえた運営を行うとともに、施設相互の連携を図り、効率的・効果的な事業展開や収益事業の実施、利用者増と満足度向上に努めました。

管理面では、利用者の安全・安心を確保する維持・管理を行いました。

1 横浜市青少年育成センター（III指定管理事業：資料集P18）

青少年を理解し青少年育成に共に取り組む核となる指導者・育成者の養成や市民活動団体等の青少年育成団体への支援を通して青少年育成者の育成に取り組みました。

Ⅱ 協会の事業

平成 21 年度は青少年を取り巻く課題に対応して、講座「引きこもりの理解と対応」や「青少年に関わる大人の講座」を実施しました。また、事業連携団体においても平成 20 年度は 4 団体でしたが、平成 21 年度は 17 団体もの団体と連携し、講座の専門性の充実を図りました。

また、平成 21 年度は育成センターのプロモーションにも力を入れ、PR チラシ等を学校、地区センター、図書館、市民活動支援センター等に配布し、稼働率、利用件数の増加に繋げました。

◆【開館日数・利用状況】

年度	開館日数	研修室・スタジオ		印刷室 利用件数	物品貸出 利用件数
		利用団体	利用人数		
19	336日	4,080件	53,459人	660件	146件
20	335日	3,565件	43,604人	482件	88件
21	337日	4,173件	56,711人	638件	101件

◆ボランティア活動等の相談対応件数：142 件

◆事業実施数：28 事業

◆参加者数：1,402 人

2 横浜市青少年交流センター（Ⅲ指定管理事業：資料集 P21）

青少年が安心して気軽にくつろげる居場所の拠点施設として、青少年が様々な人と交流し、自立性や社会性を育む場を提供しました。また、市内に青少年の居場所機能を持つ場所や活動が広がっていくよう取り組むとともに、居場所機能に関するノウハウを関係施設や団体等に提供し、支援を行いました。

平成 21 年度は、「ロビーワークの充実」、「交流センタープロモーション」、「地域との関わりの充実」の 3 つの目標を掲げ取り組みました。ロビーワークでは、ボランティアの大学生が小学生から高校生の勉強を見るなど、職員以外の関わりも増え来館する青少年の多様なニーズに応えられるようになりました。また、ホームページへの「活動報告」の掲載やセンターがある西区の「施設連携推進会議」に参加するなどして、情報共有やノウハウのアウトリーチに努めました。

◆【開館日数・利用状況】

年度	開館日数	利用状況					
		青少年	1日平均	青少年以外	1日平均	総計	1日平均
19	348日	86,618人	249人	75,319人	216人	161,937人	465人
20	347日	85,934人	248人	74,867人	216人	160,801人	463人
21	347日	92,870人	267人	77,215人	222人	170,085人	490人

◆事業実施数：40 事業

参加者数：3,321 人

3 横浜市野島青少年研修センター（Ⅲ指定管理事業：資料集 P25）

宿泊施設という特長を活かして、集団活動を通じた青少年の育成を行いました。特に横浜型若者自立塾の支援では、長期宿泊体験を通して基本生活の見直しや海運業での就労体験など、周辺資源を活用した効果的なプログラムを提供しました。また、野島町内会との「海苔づくり体験」や横浜サイエ

II 協会の事業

ンスフロンティア高校との「干潟の自然観察会」「地層と化石探検」などの事業を通して関わった新たな団体と連携して利用者提供プログラムの開発と展開に取り組みました。

また、施設環境の充実に取り組み、利用件数や稼働率の増加を図りましたが、新型インフルエンザの流行によるキャンセルや館内修繕工事による利用制限などにより利用人数が減少しました。

◆【開館日数・利用状況】

年度	開館日数	利用日数	宿泊		日帰り		合計	
			団体	人数	団体	人数	団体	人数
19	348日	271日	454件	22,555人	194件	8,354人	648件	30,909人
20	347日	254日	420件	21,923人	193件	8,562人	613件	30,485人
21	347日	254日	404件	20,537人	165件	7,802人	569件	28,339人

◆事業実施数：16 事業

参加者数：7,142 人

4 横浜こども科学館（はまぎん こども宇宙科学館）(Ⅲ指定管理事業：資料集P28)

青少年の科学に関する知識の啓発を図り、創造性豊かな青少年の育成に寄与するため、今年度は中学・高校・大学などの教育機関や企業・団体との連携に力を入れ、企画展、各種教室、イベント等を開催するとともに、展示室（特別展示、常設展示）、及び宇宙劇場の安定稼働に努めました。また、宇宙劇場におけるプラネタリウム番組内容の充実、収益プログラムの実施に取り組み、入館者・入場者、及び収益の増加を図りましたが、開港 150 周年事業や新型インフルエンザの影響により、入館者数は前年比 9%減となりました。

また、科学館開館 25 周年事業を記念し、プラネタリウム番組「横浜から宇宙へ」の製作・投影を行うとともに、「ニュートンのりんごの木」の植樹など全館体制で取り組みました。

◆【開館日数・利用状況】

年度	開館日数	入館者数	1日平均入館者数	宇宙劇場入場者数	1日平均入場者数
19	340日	291,703人	858人	165,139人	486人
20	334日	293,911人	880人	173,188人	519人
21	334日	264,826人	793人	141,973人	425人

◆事業実施数：107 事業

参加者数：400,220 人

E-I, II 指定管理施設連携事業

施設連携による相乗効果が得やすい事業を協会本部が統括して企画し、施設連携により実施することで、青少年育成に関して最大限の成果を得られるよう取り組みました。併せて、次期指定管理者獲得に向けた各施設の実績づくりのため、施設事業面での評価・検証の充実に努めました。

小学校高学年から中学生に向けた「科学体験プログラム」を、こども科学館や野島青少年研修センターの両施設と職員のノウハウを活用し実施しました。また、野島研修センターや青少年交流センターと連

Ⅱ 協会の事業

携して、横浜市教育委員会が行う適応指導教室「ハートフルスペース」（不登校、ひきこもり児童生徒の個別、集団による生徒指導）の活動支援や日本青年都市会議、横浜市と共催で全国の青少年育成関係者、及び市民を対象とした「青少年の居場所づくりフォーラム」を青少年交流センターで実施し、横浜市の取り組みの紹介や他都市との情報交換を行い、青少年の居場所の啓発を行いました。

F-I 公益法人認定基準に沿った協会の見直し

1 新公益法人移行のための調査・研究

平成20年12月、新公益法人制度改革関連三法の制定に伴い、協会の目的、事業の性質・内容、財務、組織、財産等を公益認定の基準に沿って再構築し、分析・検討した結果、協会は、『公益財団法人』を目指すことになりました。

青少年育成の専門的な公益法人として、平成22年6月に公益認定の移行申請を行います。

G-I 財政の強化

1 ボランティア育成基金の充実

青少年を対象とした、ボランティア活動・青少年育成活動を推進するための「ボランティア育成基金」の拡充、及び基金事業の充実を図りました。

(1) 基金委員会

基金募集のため「第49回爆笑！濱っ子寄席」「デジカメ講座」や基金箱の設置等の事業を実施しました。

また、基金の有効活用を図るため、青少年体験活動推進コーナーの運営や「学校教育と連携した地域人材の活用システム事業」をはじめとする基金事業の評価を行い、次年度事業計画に反映しました。

◆委員会開催回数：9回

(2) 基金の募集状況

	19年度	20年度	21年度
個人・団体・企業寄付	4,176,881円	710,477円	660,997円
育成基金箱	324,547円	501,949円	288,302円
基金募集事業	929,000円	1,020,000円	841,000円
カード収集	12,483円	1,721円	—
合計	5,442,911円	2,234,147円	1,790,299円

2 自主財源の確保

自主財源の充実を図り、事業の拡大を行うために企業協賛の獲得に努め、青少年育成活動情報紙、協会広報紙、科学情報紙への企業等協賛による広告を掲載しました。

また、指定管理付帯事業として、科学館の売店、駐車場の運営による自主財源の確保に努めました。

II 協会の事業

G-II 組織の強化

1 会員の充実

協会活動を支えていただいている会員の皆様に、協会への理解をより一層深めていただくために情報提供（協会だより 年6回）、会員交流会（新春のつどい 参加者100人）を行いました。

◆平成21年度会員数：798件

会員の状況

年度	総数	A会員	B会員	C会員	D会員
19	1,216件	809人	249件	81人	77件
20	975件	628人	214件	65人	68件
21	798件	498人	180件	63人	67件

A会員：個人(3,000円)

B会員：団体・法人(年会費5,000円)

C会員：個人(年会費1口5,000円)

D会員：団体・法人(年会費1口10,000円)

2 協会本部機能の強化・職員育成

公益三法の制定による公益法人移行を平成22年度と定め、平成21年度は、担当課長の配置など事務局組織の強化を図りました。

また、外部研修にも積極的に参加し、職員のスキルアップに努めました。特に地域における若者の自立支援に係る内閣府の取り組みとして横浜市が実施している「ユースアドバイザー講習会（全9回）」に協会職員としてセンター長2人が参加し、青少年の健全育成を含めて、若者の社会的・経済的自立のための社会資源や取り組みを学ぶとともに、関係機関・団体とのネットワークを広げました。

平成21年度事業報告

資料集

財団法人 横浜市青少年育成協会



もくじ

協会の運営

I 協約目標の達成…………… P 1

協約事項 1 (P1)

協約事項 2 (P1)

協約事項 3 (P2)

協約事項 4 (P2)

協約事項 5 (P3)

協約事項 6 (P3)

II 組織強化 …………… P 4

1 組織改革 (P4)

2 指定管理施設(指定管理4施設)の外部評価 (P4)

3 職員研修の充実 (P4)

協会の事業

平成 21 年度 事業体系 …………… P 5

I 本部事業 …………… P 6

II キッズクラブ事業 …………… P 13

III 指定管理事業 …………… P 18

1 横浜市青少年育成センター (P18)

2 横浜市青少年交流センター (P21)

3 横浜市野島青少年研修センター (P25)

4 横浜こども科学館 (P28)

I 協約目標の達成

【協約事項1】

【協約事項1】											
公	指定管理者として管理運営を行っている4施設の利用者の増加(4施設各10%以上)を図ります。また、放課後キッズクラブ事業の利用率の増加(10%以上)を図ります。										
	評価指標の推移(比重)	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	単位
	青少年交流センター青少年利用者数(全体利用者数)(0.2)	10,823 (22,697)	71,705 (117,353)	78,444 (126,858)	69,311 (141,246)	70,000 (142,000)	72,000 (145,000)	74,000 (146,000)	76,000 (147,000)	78,000 (148,000)	人
	野島青少年研修センター利用件数(稼働率)(0.2)	506 (74.5)	513 (76.5)	540 (72.2)	507 (71.3)	520 (71.4)	530 (72)	540 (73)	550 (74)	560 (75)	利用件数 (稼働率%)
	青少年育成センター利用件数(0.2)	2,362	2,861	3,142 (59.3)	3,229 (55.4)	3,300 (49.3)	3,385 (50.2)	3,470 (51.5)	3,555 (52.8)	3,640 (54.1)	利用件数 (稼働率%)
	こども科学館利用団体数(0.2)	982	1,013	931	968	930	992	1,016	1,040	1,065	団体数
	放課後キッズクラブ利用率(0.2)	-	-	42.8	50	52	54	56	58	60	%
①	経営課題解決に直結しているか	施設の充実による利用者の増加、プログラム充実による放課後キッズクラブ事業の利用率の増加は、協会の経営課題解決の基本的な事項です。									
②	目標が明確かつ具体的であるか	施設運営、キッズクラブ利用率とも、サービス提供相手を具体的な数値として明確にできる実績値で評価します。青少年育成センター、青少年研修センターは団体活動支援の場であるため、利用件数を指標とします。また、科学館については平日の利用を促進するために利用団体数を、交流センターは個人への支援の場であるため、利用者数を指標とします。 ※1 野島青少年研修センターの稼働率:利用日数/利用可能日数 ※2 青少年育成センターの稼働率:利用件数/利用可能コマ数 ※3 放課後キッズクラブ利用率:キッズクラブ利用児童数/キッズクラブ設置校の全在籍児童数									
③	十分に高い目標水準か	いずれも過去の実績を上回る高い目標水準としています。青少年交流センターは平成14年12月1日に開館したため、平成14年度のデータは4か月間の数値です。									

【協約事項1の平成21年度実績】

評価指標の推移		平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度目標	平成22年度目標	単位
青少年交流センター	青少年利用者数	86,618	85,934	92,870	78,000	人
	全体利用者数	161,937	160,801	170,085	148,000	人
野島青少年研修センター	利用件数	648	613	569	560	利用件数
	稼働率	83	78.6	86.1	75	%
青少年育成センター	利用件数	4,080	3,565	4,173	3,640	利用件数
	稼働率	61	61.5	61.8	54.1	%
こども科学館	利用団体数	1,106	1,149	1,046	1,065	団体数
放課後キッズクラブ	利用率	54	54	54	60	%

【協約事項2】

【協約事項2】											
公	青少年の自立支援事業を4事業以上実施します。また、青少年の体験活動に関する相談件数を400件以上(コーディネート件数63%以上)、青少年指導者等への講座の参加者数を380人以上とします。										
	評価指標の推移(比重)	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	単位
	青少年の自立支援事業(0.4)	-	-	-	-	-	1	2	3	4	実施事業数
	青少年の体験活動の充実(0.3)	-	-	-	88	300(59)	325(60)	350(61)	375(62)	400(63)	相談件数(コーディネートできた件数%)
	青少年指導者等の活動支援(0.3)	-	-	-	-	300	330	340	370	380	講座参加者数
①	経営課題解決に直結しているか	自立支援事業は、今後、市と連携し取り組んでいくべき重要なテーマです。青少年の体験活動の充実及び青少年指導者等の活動支援は、青少年プランの推進を目的とする協会の重要な役割です。 ①青少年の自立支援事業 若年無業者の保護者を対象とした講座の開催や学齢期児童の就労体験事業など、青少年の自立支援を目的とする講座や体験活動等を、市内の若者自立支援の専門機関・団体と連携して実施 ②青少年の体験活動の充実 青少年の体験活動やボランティア活動への相談・コーディネートによる支援 ③青少年指導者等の活動支援(ボランティア情報スポット) 青少年指導者・育成者等を対象とした講座の開催、活動プログラムや活動情報の提供等による支援									
②	目標が明確かつ具体的であるか	青少年の自立支援事業については、今後、市と調整を図りながら、具体的な実施事業を検討・決定します。青少年の体験活動の充実及び青少年指導者等の活動支援については、ともに明確で具体的な数値目標を設定しています。									
③	十分に高い目標水準か	協会の重点課題を解決するための事業を充実していくことは、今後の協会の意義を示す十分な目標です。									

【協約事項2の平成21年度実績】

評価指標の推移		平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度実績	平成22年度目標	単位
青少年の自立支援事業	実施事業数	4	6	11	4	事業数
青少年の体験活動の充実	相談件数	333	454	505	400	利用件数
	コーディネート件数	61	68	64	63	%
青少年指導者等の活動支援	講座参加者数	432	636	1,402	380	参加者数

【協約事項3】

【協約事項3】										
公	施設利用者及び事業参加者の満足度(目的達成率)を86%以上とします。									
評価指標の推移	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	単位
施設利用者及び事業参加者の満足度(目的達成率)	—	—	—	—	—	80	82	84	86	達成率%
① 経営課題解決に直結しているか	施設利用者及び事業参加者の満足度(目的達成率)は、施設及び事業の効率的・効果的な運営・実施を実現するための重要な指標です。 施設利用者及び事業参加者を対象としたヒアリングやアンケート、参加後の振り返り、ホームページを活用した調査など、様々な手法で満足度(目的達成率)を調査します。									
② 目標が明確かつ具体的であるか	具体的な数値目標を設定しています。 アンケート結果等の評価を運営へ反映させることにより、事業参加者の満足度(目的達成率)を上げていきます。									
③ 十分に高い目標水準か	市民が多様な価値観や目的で施設を利用し、また、事業に参加する中、満足度(目的達成率)80%台を維持することは、高い目標水準と言えます。									

【協約事項3の平成21年度実績】

施設利用者、入館者へのアンケート調査をはじめ講座・研修会終了後に「ふりかえりの時間」を設け個々の目的達成度を把握し、要望や提案などを事業に反映するなど、事業参加者の満足度向上に努めました。

評価指標の推移	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度目標	平成22年度目標	単位
施設利用者及び事業参加者の満足度(目標達成率)	89.5	95.2	96.1	86	%

【協約事項4】

【協約事項4】										
公	ホームページへのアクセス数を130(指数)以上とします。また、利用者の声の一層の反映を図ります。									
評価指標の推移(比重)	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	単位
アクセス数(0.6)	—	—	—	—	検討	100	110	120	130	指数
利用者の声の反映(0.4)	—	—	—	—	—	検討・実施	実施・検証	実施・検証	実施・検証	—
① 経営課題解決に直結しているか	青少年育成に関する情報提供の拡充は、市民との協働や市民の参画により青少年育成を推進することを目指している協会にとっての課題であり、運営情報を公開し透明性を図ることは、市民の協会への理解に繋がります。 利用者の意見を運営に積極的に反映させることで、様々な角度からサービスの充実を図ることができます。									
② 目標が明確かつ具体的であるか	ホームページで提供する有用な情報がどの程度利用されたかを示す指標として、平成19年度のアクセス数を100とし、その数値の割合を指数として目標に設定しています。 受け取る側のニーズを反映した情報提供方法の検討やガイドライン策定に取り組むプロジェクトを設置し、インターネットによる情報提供を充実する仕組みを構築します。 施設利用者や事業参加者からの意見・要望等を的確に捉える仕組みを検討し、実施・検証します。 ※ アクセス数:青少年育成活動情報など、協会ホームページ内の重要ページの読み出し回数									
③ 十分に高い目標水準か	アクセス数を平成19年度比30%増加させるためには、新規コンテンツの増加、ページ内容の充実等、様々な取組が必要であり、高い目標と考えます。 利用者の声を施設運営や事業内容に反映させることは、協会運営の健全化・活性化に不可欠な取組です。									

【協約事項4の平成21年度実績】

情報紙のWEB版掲載し、横浜の青少年施策の動向や青少年が抱える課題、および協会が目指す青少年育成について、広く市民が情報を取得できるよう努めました。さらに「施設の情報を充実させてほしい」という声を反映し、指定管理施設ごとのページ開設に向けた準備をすすめました。

また、アクセス数の指標となる重点ページを、青少年のみならず保護者や育成者・指導者など幅広い層が対象となる「イベント・講座情報」に決めました。平成19年度のアクセス数を100とし、平成21年度は、更新頻度をあげ、ホットな情報を提供するなど内容の充実に努めました。

指標となるページ	平成19年度実績(実数)	平成20年度実績(実数)	平成21年度実績(実数)	平成22年度目標	単位
はまユース/イベント・講座情報INDEX	100 (4,562)	117 (5,341)	125 (5,341)	130 (5,930)	%

【協約事項 5】

【協約事項5】											
財	自主財源比率を30%以上とします。										
	評価指標の推移	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	単位
	自主財源比率	—	—	—	23	26	29	30	30	30	%
①	経営課題解決に直結しているか	経費の削減及び、利用料金、事業収入、会費収入、ボランティア育成基金などの自主財源の確保を図り、協会の使命を遂行するための事業を推進することは、経営課題に直結しています。									
②	目標が明確かつ具体的であるか	具体的な数値目標を設定しています。 ※ 自主財源比率=B/A A=協会の総収入(放課後キッズ補助金・委託料を除く) B=A-市からの補助金・委託料(放課後キッズ補助金・委託料を除く)									
③	十分に高い目標水準か	指標については、過去の実績と比較し、高い目標水準です。									

【協約事項 5 の平成 2 1 年度実績】

目標達成に向け、利用料金、事業収入、会費収入、ボランティア育成基金などの自主財源の確保を図りましたが、平成 2 1 年度は、新型インフルエンザ等の影響により利用料金、事業収入が大幅に減少しました。

評価指標の推移	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度実績	平成22年度目標	単位
自主財源比率	30	31	30	30	%

※平成 2 1 年度自主財源比率

$$(A) 653,255,045 = 919,774,089 - 24,806,000 - 241,713,044$$

$$(B) 196,300,545 = 653,255,045 - 415,103,500 - 38,651,000 - 3,200,000$$

$$\text{自主財源比率 } 0.30 = (B) 196,300,545 \div (A) 653,255,045$$

【協約事項 6】

【協約事項6】											
業	職員の意欲を引き出し、事業の充実や職員のスキルアップを図ることのできる新たな組織・人事給与制度を導入します。										
	評価指標の推移	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	単位
	新たな組織・人事給与制度の導入 (人材育成、人事考課制度の導入)	—	—	—	—	検討チーム 設置・実施	給与制度改定	給与制度への 職員の人事考 課導入	給与制度への 職員の人事考 課導入	検証・検討・ 改善	—
①	経営課題解決に直結しているか	自主・自立性の高い組織を目指す協会にとって、職員の能力開発や資質・意欲向上を図ることは重要な課題です。									
②	目標が明確かつ具体的であるか	平成18年度に設置した組織・人事給与検討委員会の提言に基づく組織・人事給与制度の導入を指標として定めます。									
③	十分に高い目標水準か	非成長・拡大の社会情勢に対応するため、人事考課制度をはじめとした新たな組織・人事給与制度を導入することは、協会の急務の課題です。									

【協約事項 6 の平成 2 1 年度実績】

組織・人事給与検討委員会の提言に基づいて組織改革を進め、平成 2 1 年度をもって計画どおり達成しました。給与制度への人事考課導入は、平成 2 0 年度から管理職のMBOを本格実施をしています。しかし、新公益法人移行への対応等を考慮する中で、給与制度への導入までは至りませんでした。

II 組織強化

1 組織改革

管理職による「組織・人事給与改革委員会 (H19)」から提言された「年次別の組織改革案」をもとに、新公益法人への移行準備や次期指定管理者獲得の課題を中心に検討し、本部機能を強化する事務局組織改革を更に進めました。

【新旧事務局組織表】

平成21年度 (51人) 市派遣:0人 市OB:4人 再雇用:1人 固有職員:22人 有期・嘱託職員:24人		ア こども科学館担当部を、管理課と事業課の2課制としました。 イ 新たに、新公益法人移行、及び、指定管理者獲得のため、総務企画部に担当課長を置き本部機能を強化しました。
専務理事 (事務局長) 市・局区長級OB	総務企画部 (10人) 《総務企画部長》 《総務課長》①②③ 市OB1、再雇用1、固有8 《総務企画部担当課長》 《企画営業課長》①②③	
職員数は欠員を含みません。	施設管理部 (13人) 《施設管理部長》 《育成センター長》①② 固有6、有期7 《交流センター長》①① 《研修センター長》①②③④	
	こども科学館担当部 (22人) 《担当部長》 《管理課長》①②①② 市OB1、固有6、有期13、OB嘱託2 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩ 《事業課長》①②①②③	
	放課後児童育成推進部 (5人) 《推進部長 (欠員)》 《研修課長》① 市OB1、固有2、有期2 《運営課長》①①	
平成22年度 (51人) 市派遣:0人 市OB:5人 再雇用:1人 固有職員:17人 有期・嘱託職員:28人		ア こども科学館事業の普及、及び入館者増促進のため、市内小中高校への営業活動担当として、市中学校長OBを非常勤職員として雇用しました。 イ H22年度に新法人移行申請をすることを決定したため、実務担当職員を配置し機能強化を図りました。
専務理事 (事務局長) 市・局区長級OB	総務企画部 (10人) 《総務企画部長》 《総務課長》①②① 市OB1、再雇用1、固有7 《総務企画部担当課長》① 《企画営業課長》①②①	
職員数は欠員を含みません。	施設管理部 (14人) 《施設管理部長》 《育成センター長》①② 固有6、有期8 《交流センター長》①② 《研修センター長》①②③④	
	こども科学館担当部 (22人) 《担当部長》 《管理課長》①②① 市OB1、固有5、有期14、OB嘱託2 ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫ 《事業課長》①①②③④	
	放課後児童育成推進部 (4人) 《推進部長 (欠員)》 《研修課長》(欠員) 市OB1、固有1、有期2 《運営課長》①②	

2 指定管理施設 (青少年4施設) の外部評価 (PDCAサイクルの充実)

青少年4施設の「青少年育成事業」という専門性や施設特性等を持つ指定管理業務の状況について、「横浜市指定管理者第三者評価に関するガイドライン」に基づき第三者評価委員会による評価を受けました。その評価結果を受け、更なる業務改善の取り組みやサービス向上に努めました。

(1) 指定管理施設外部評価の流れ

時期	項目	内容
7月	第1回評価委員会	評価方法、評価項目の確認、指定管理者へのヒアリング、評価
8月	第2回評価委員会	施設の実地調査、指定管理者へのヒアリング、評価
8月	第3回評価委員会	施設の実地調査、指定管理者へのヒアリング、報告書の作成
9月	第4回評価委員会	指定管理者へのヒアリング、報告書について

3 職員研修の充実

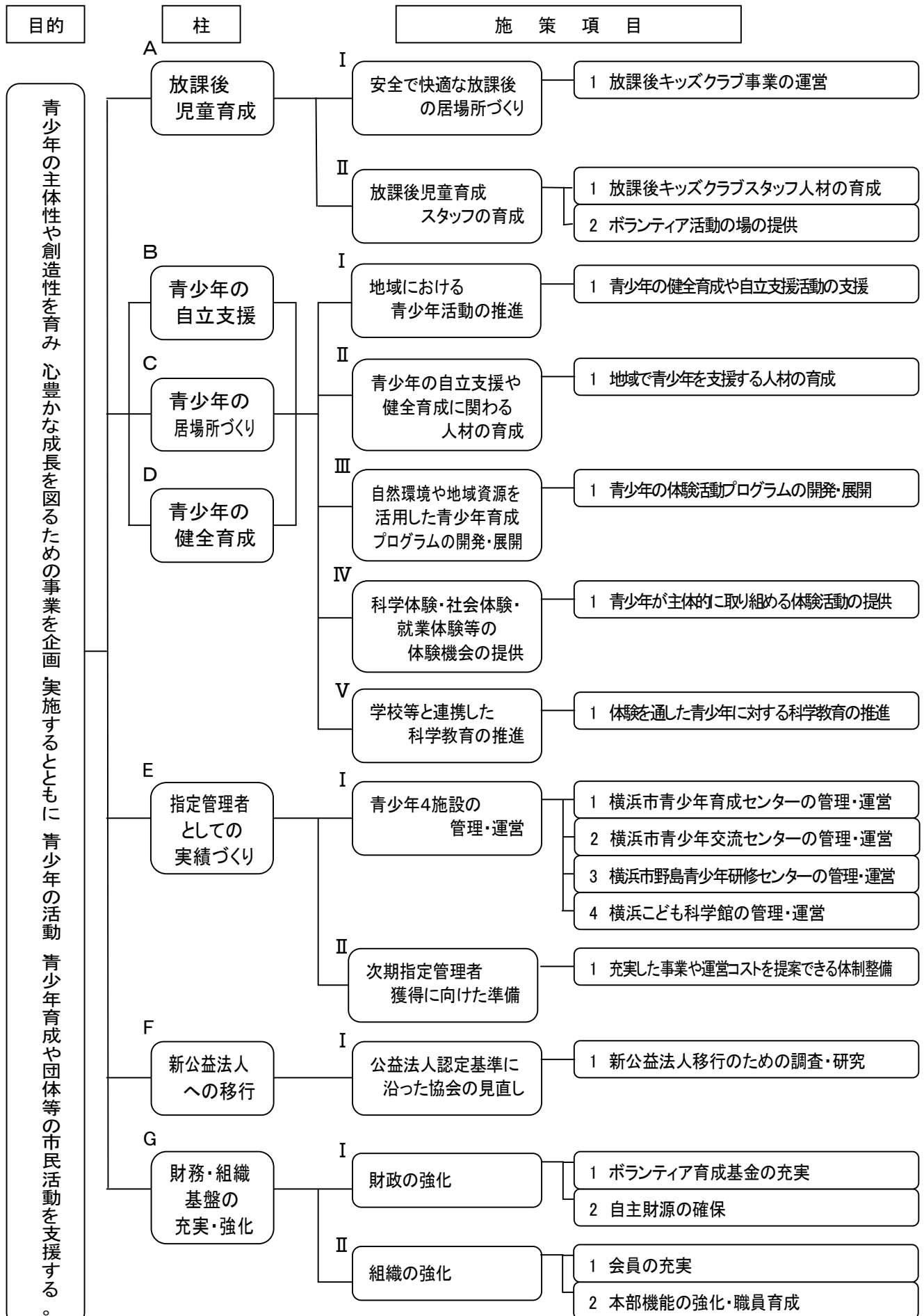
職員の資質向上のため、外部研修への積極的な参加を図るとともに、時給職員を含む全職員を対象とした人権研修 (前期9回、後期3回) や、各職場単位での人権研修、個人情報保護研修、職員研究交流集会を実施しました。

(1) 協会が実施した主な職員研修

研修項目	内容	対象と開催回数
人権研修 全体研修	<前期>職業差別について <後期>障害 (発達障害) を持った青少年の対応	時給職員含む職員全員が必須 前期9回、後期3回実施
人権研修 職場単位	課単位でテーマを設けた人権啓発研修	課で最低1回以上実施 (キッズ20カ所含む)
個人情報保護研修	個人情報の取り扱いについて	課で最低1回以上実施 (キッズ20カ所含む)
職員研究交流集会	平成22年度の新法人移行について	職員対象に年1回実施

(2) その他: 課内会議や担当者会議を有効に活用し、OJTによる職場内研修を実施しました。

平成21年度 事業体系



I 本部事業

事業名（本部事業）	区分
I 地域における青少年活動の推進	BCD-I-1
1 青少年育成パンフレットの作成・活用	
<p>青少年向けのパンフレットを作成・配布し、地域での青少年の活動を促進するとともに、行政、学校、関係団体、企業等に対し、青少年育成への協会の取り組みについて理解を図りました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 青少年向けパンフレットの作成 4,500部 ・ 協会PR用データの収集・整理 	
2 青少年育成情報誌の発行	
<p>青少年育成情報紙「YOKOHAMA EYES」を通じて、青少年育成活動に従事している人や、これから取り組もうとしている人に対して協会が取り組んでいる活動や考え方を伝えるとともに、保護者等の青少年に関わる一般の大人に対しても広く青少年育成情報を発信しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発行部数：40,000部（年4回 7月、11月、1月、3月） ・ 配布先：協会会員、関係機関・団体、学校、市内公共施設、駅PRボックス、他 ・ 主な内容：子どもの好奇心を引き出す/遊びの場は学びの場/子どもの夢を育てる/子どもの社会性を引き出す 「若者の相談現場から」現代の青少年の直面する課題について連載記事を掲載 	
3 協会広報紙「はまユース情報」の発行	
<p>協会主催・共催事業、協会の管理・運営施設での事業を広く周知し参加者の増加を図るとともに、協会の取り組みへの理解を図りました。下半期からは、こども科学館の事業案内と統合し、協会全体の事業を集約した広報紙として発行しました。</p> <p>発行部数：70,500部（年6回 4月、6月、8月、10月、1月、3月）</p> <p>配布先：協会会員、関係機関・団体、学校、市内郵便局、公共施設、駅PRボックス、他</p>	
4 協会ホームページの充実	
<p>指定管理施設ごとのページを開設することで市民へのニーズに対応するとともに、施設利用者や事業参加者の増加を図りました。また、情報紙のWEB版を掲載し、青少年が抱える課題や協会が目指す青少年育成について、広く市民が情報を取得できるよう努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 青少年育成センター、青少年交流センターのホームページを開設 ・ 「YOKOHAMA EYES」WEB版を過去に遡り完全掲載 	
5 調整・相談・コーディネート	
<p>地域の青少年育成事業や居場所づくり事業等に地域の市民活動やNPOの活動をコーディネートするとともに、区役所や自治会等との調整を図りました。</p> <p>(1) よこはま型自立塾支援連絡会議の開催</p> <p>育成協会、こども青少年局、体育協会、NPOの各団体の資源やノウハウを活用し、連携して若者自立塾の活動を支援するために連絡調整会議を開催しました。</p> <p>(2) 横浜の青少年の体験活動に関する懇話会</p> <p>自然体験プログラムのあり方検討を行うために、横浜市内で青少年育成に取り組む機関や団体をはじめ、環境活動や科学推進団体・機関の懇話会を開催し、青少年の体験活動の展開に活用できる資源のネットワーク化やその資源を活用した自然体験活動のモデル事業を企画実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 懇話会メンバー：育成協会、こども青少年局、教育委員会、NPO、少年5団体 	

事業名（本部事業）	区分
<p>(3) よこはま 青少年自然・科学体験フォーラム 2010</p> <p>こどもたちが異年齢集団での自然・科学体験を通じて、人と人との繋がりの中で、温もりあるサイエンス都市・横浜を実現する人材育成のあり方を考えるためのフォーラムを開催しました。</p> <p>日 時：平成 22 年 3 月 28 日（日）午後 1 時 30 分～午後 5 時 30 分</p> <p>会 場：横浜市立横浜サイエンスフロンティア高校</p> <p>内 容：基調講演（横浜こども科学館 和田館長）、理科教育や自然体験活動報告 パネルディスカッション「横浜の自然を活かした科学教育を考える」</p> <p>参加者：97 人（青少年 33 人、大人 64 人）※発表者含む</p> <p>(4) 団体活動報告書の発行</p> <p>市内の青少年の体験活動を支援する団体情報をわかりやすく効率的に提供するため、青少年の体験活動事例集を発行しました。</p>	
<p>6 地域連携事業</p>	
<p>地域や市民活動団体、ボランティアとの連携を図りながら、地域で青少年を育む連携事業を実施します。また、ノウハウを持ったスタッフが地域に出向き、地域における青少年活動を支援します。</p>	
<p>(1) 十日市場中学校地域連携事業</p>	
<p>横浜市立十日市場中学校の生徒と地域の「顔の見える関係」づくりを推進するため、地域(学区)の方や団体、学校、PTA、育成協会による「十日市場中学校・地域交流事業実行委員会」で中学生の地域活動参加プログラムを実施</p>	
<p>① 地域交流会「たき火の会」 参加者44人（中学生20人、地域の大人24人）</p> <p>② 夏の交流事業「夏ボラしようぜ！」 7団体受入 参加中学生延べ152人</p> <p>③ 冬の交流事業「冬ボラしようぜ！」 5団体受入 参加中学生延べ55人</p> <p>④ 春の交流事業「春ボラ」 5団体受入</p>	
<p>(2) 地域交流事業実行委員会の開催</p>	
<p>開 催 日：5月15日(金)、6月12日(金)、10月14日(水)、2月26日(金)（全4回）</p>	
<p>◆洋光台サイエンスクラブ</p>	
<p>継続的な科学体験を通して科学への興味関心を促進するため、近隣地域の子どもたちを対象とした登録制クラブを運営し、地域や市民活動団体等と連携し子どもたちを対象とした様々な教室や催しを実施し、を図りました。</p>	
<p>内 容：実験工作教室、環境自然教室、池づくり体験教室、電波教室 他</p>	
<p>実施時期：通年 毎月 2～3 回、土曜日を中心に実施</p>	
<p>登録人数：110 人</p>	
<p>参加者数：延べ参加人数502人 応募総数 858人</p>	
<p>① 実験工作教室 11回（8月を除く毎月）開催 参加者232人</p> <p>② 環境自然教室 4回（7/11, 8/3, 25, 2/13） 参加者81人</p> <p>③ 電波教室 2回（10/24, 1/23） 参加者35人</p> <p>④ オーディオ教室 2回（6/13, 9/12） 参加者58人</p> <p>⑤ その他（自然観察、施設見学、科学教室）4回 参加者96人</p>	

事業名（本部事業）	区分
Ⅱ 青少年の自立支援や健全育成にかかわる人材の育成	BCD-II-1
1 地域で青少年を支援する人材育成	
<p>子どもの成長に関心を持ち、見守り、積極的に支援できる人材を育成するためのユースコーディネーター研修の企画・運営を育成センターおよび交流センターと連携して行いました。</p>	
2 子どもの遊びサポート事業	
<p>プレイパークをはじめとする集団遊びや異年齢間の交流、自然とのふれあいなどを通して子どもの自主性や創造性を育てていく活動に関わるボランティアを育成します。</p> <p>開催日：(1) 育成研修2009 講義：9月27日（日）、10月25日（日） 実習：10月28日（月）～10月24日（土）の間の2日以上実施</p> <p>(2) フォローアップ研修 11月23日（月祝） (3) スキルアップ研修 1月29日（金）</p> <p>内容：(1) 「遊びのボランティア育成研修2009」 遊び場についてのワークショップや講義の後、市内プレイパークや地域子育て拠点での実習を通して子どもとの関わり方などを学びました。 (2) フォローアップ研修「アドベンチャー教育による子どもとの関係づくり」 (3) スキルアップ研修「五感教育、体験学習、自然観察」について</p> <p>参加者数：(1) 育成研修46人 (2) フォローアップ研修26人 (3) スキルアップ研修26人 会場：横浜市青少年育成センター、青少年交流センター、市内のプレイパーク、他</p>	
3 講師派遣	
<p>協会の培ったノウハウを広く提供し、青少年の健全育成・ボランティア活動推進を図るため、アウトリーチ事業として講師派遣を行いました。</p> <p>依頼件数：36件 派遣先：市内外の青少年指導員研修、企業、市内大学、市内高校 他 派遣職員：延べ40人 主な内容：ボランティア活動の基本・心構え、こどもログハウス新任スタッフ研修、コミュニケーション研修、青少年育成活動、青少年との関わり、他</p>	
Ⅲ 自然環境や地域資源を活用した青少年育成プログラムの開発・展開	BCD-III-1
1 自然体験プログラムの開発・展開	
<p>野島海岸など市内の自然環境資源を活かした青少年の健全育成プログラム（自然塾やサイエンスキャンプ等）の開発、展開に取り組みました。</p> <p>◆海・ふれあい体験事業</p> <p>市内の自然環境や地域資源、環境活動を活用した体験活動プログラムとして「海・ふれあい・体験事業」を実施しました。</p> <p>事業実施においては、市内で青少年育成活動に取り組むNPO法人「ヨコハマ未来地図づくり100人委員会」と協働して実施しました。</p> <p>日時：平成21年9月12日（土）～13日（日） 1泊2日 会場：横浜市野島青少年研修センター及び横浜ベイサイドマリーナ 内容：クルージング体験、海辺の自然観察体験、環境保全活動、宿泊体験、他 参加者：143人</p>	

事業名（本部事業）	区分
<p>◆よこはま カニ救出大作戦</p> <p>市内の自然体験活動資源を活用した青少年の自然体験プログラムのモデル事業として、帷子川洪水対策による護岸工事により住処を失うアシハラガニの救出と横浜の護岸に生息する生き物調査を実施しました。</p> <p>日 程：平成22年3月20日（土）</p> <p>会 場：みなとみらい 帷子川河口 潮入り公園予定地</p> <p>参加者：小中学生と保護者 183人</p> <p>◆横浜の海・みなと体験プログラム</p> <p>「横浜の海」ならではの活動を体験する青少年育成プログラムのモデル事業として、帆船日本丸の「海洋教室」を活用した青少年体験プログラムを実施しました。「海洋教室」では、甲板みがき、ロープワークやカッター訓練などの体験を通して帆船の規律正しい団体生活を通じて協調性や精神力、社会性などを養う機会となりました。</p> <p>日 時：平成22年3月20日（土）～21日（日）1泊2日</p> <p>会 場：帆船日本丸、帆船日本丸研修センター、帷子川河口生態護岸、他</p> <p>参加者：横浜市内に在住・在学の小学5・6年生 60人</p> <p>◆サイエンスキャンプ</p> <p>青少年に野外での自然観察等を通して科学知識の普及を進めるとともに、宿泊体験を通じた集団活動の機会を提供するため、野島青少年研修センターと連携して実施しました。</p> <p>内 容：ハイキング、課題研究、科学工作、海苔作り体験、他</p> <p>実施時期：2月28日（日）～4月11日（日） 宿泊3月26日～28日（2泊3日）</p> <p>参加者：参加者48人（小学生37人、中学生11人）ボランティア18人</p>	
<p>2 野島クリスマスキャンプ</p> <p>横浜市立小中学校の個別支援学級に通う児童・生徒を対象に体験活動の場を提供するとともに、青年ボランティアに児童・生徒への理解を深めてもらうことを目的に、団体（実行委員会）と協働で実施しました。</p> <p>開 催 日：12月12日（土）～13日（日）</p> <p>会 場：横浜市野島青少年研修センター</p> <p>参加者数：195人（ボランティアを含む）</p> <p>主 催：野島クリスマスキャンプ実行委員会</p> <p>そ の 他：ボランティア事前研修会 10月28日（水）、31日（土）</p> <p>ふれあいの会 11月28日（土）参加者206人（ボランティア含む）</p>	
<p>IV 科学体験・社会体験・就労体験等の体験機会の提供</p>	BCD-IV-1
<p>1 青少年体験活動推進コーナー</p> <p>ボランティア活動をはじめ、自然、就業、科学等の青少年の体験活動・学習についての相談・コーディネート、活動情報の収集・提供を通じて青少年に関わるボランティアの裾野を広げることを目的として、「青少年体験活動推進コーナー」の運営を交流センターと協働で行いました。</p> <p>(1) 青少年の体験活動におけるボランティア紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水源林ボランティア事業、障がい児キャンプボランティア、他 	

事業名（本部事業）	区分
<p>(2) 他機関・団体とのネットワーク構築</p> <p>◆ 神奈川県教育委員会の地域ボランティアエアポート 高校生のボランティア活動推進を目的に設置された、地域ボランティアエアポートの一つとして高校生を対象としたボランティア活動コーディネート、活動体験事業の開催</p> <p>◆ 神奈川大学ボランティア支援室の運営支援（企画相談、調整、研修、他）</p>	
<p>2 ヨコハマ・ハイスクール・ミュージック・フェスティバル</p> <p>高校生自身の企画・運営による音楽活動の発表の場を全国の高校生に広く提供することで、高校生の社会参加活動を促進するため、運営支援委員会事務局として高校生で構成する実行委員会を支援しました。</p> <p>また、実行委員会事務局を交流センター事務室内に設置し、日常的な事務局支援も行いました。</p> <p>開催日：8月12日（水） 会場：横浜アリーナ 入場者数：5,050人 実行委員会：303人（高校生）</p>	
<p>3 FUNEプロジェクト</p> <p>横浜開港150周年に伴い、(財)横浜開港150周年協会、(財)帆船日本丸記念財団・JT B共同事業体と協働して、青少年の体験活動を目的に「横浜 FUNE プロジェクト 夏休みキャンプ in 帆船日本丸」を開催しました。</p> <p>開催日：7月30日(木)～31日(金) 1泊2日 会場：日本丸訓練センター、帆船日本丸 参加者数：86人（小学5・6年生61人 青年ボランティアスタッフ25人） 内容：海洋教室（カッターやロープワーク等）、ダンボール船の作成</p>	
<p>V 学校等と連携した科学教育の推進</p>	BCD-V-1
<p>1 横浜市立横浜サイエンスフロンティア高校(YSFH) との連携事業</p> <p>横浜サイエンスフロンティア高校をはじめとする教育機関や企業と連携事業を実施し、青少年に対する科学教育の推進を図りました。</p> <p>◆ 「宇宙」を学ぶ、体験する</p> <p>(1) 移動式プラネタリウムで星空を学ぶ（YSFH科学技術顧問：遠山御幸 横浜モバイルプラネタリウム代表） 日時：8月20日（木）21日（金） 場所：横浜サイエンスフロンティア高校 内容：移動式プラネタリウムを活用した星空解説 ※1：PSY、YSFHの教諭、児童及び保護者を対象にした非公開プログラムで実施 PSY：パイオニアスクールよこはま（井土ヶ谷小、中川小、菊名小）</p> <p>(2) ミニプラネタリウム体験（こども青少年局、YSFH、青少年育成協会、宇宙航空研究開発機構、横浜開港150周年協会） 日時：8月23日（日） 場所：赤レンガ倉庫 内容：ミニプラネタリウムを活用した星空解説 対象：小中学生と保護者 159人 ※向井宇宙飛行士を招いた「JAXAタウンミーティング」との連携企画で実施。</p> <p>(3) 天文教室（こども青少年局、YSFH、青少年育成協会、こども科学館） 日時：12月18日（金）及び19日（土） 場所：こども科学館（12/18プラネタリウム）及びYSFH（12/19天体望遠鏡） 内容：プラネタリウムと天体望遠鏡による天体観測 対象：小学校5年生から中学生と保護者 1日目 118人、2日目 57人</p>	

事業名（本部事業）	区分
<p>◆横浜の自然を知る、感じる</p> <p>(1) 野島海岸周辺の自然観察(こども青少年局、YSFH、青少年育成協会、野島研修センター) 日時：10月18日(日)9時～15時 場所：野島青少年研修センター及び野島海岸周辺 内容：干潟や砂浜の生き物観察、地層や化石探検</p> <p>(2) 対象：小学校5年生から中学生と保護者 67人鶴見川河口の自然観察(こども青少年局、YSFH、青少年育成協会) 日時：11月14日(土)又は15日(日) 場所：横浜サイエンスフロンティア高校及び鶴見川河口域 内容：汽水域の生き物観察 対象：小学校5年生から中学生と保護者 68人</p> <p>◆自律型ロボットを動かす、学ぶ</p> <p>自分だけのロボットを作る、動かす(こども青少年局、YSFH、青少年育成協会、こども科学館) 日時：2月14日(日)9時～15時 場所：こども科学館 内容：レゴロボの作製及び起動体験 対象：小学校5年生から中学生 38人</p>	
VI 指定管理施設連携事業	E-I, II
1 ハートフルスペース連携事業	
<p>不登校の児童・生徒を対象とした宿泊事業を横浜市教育委員会と共催で実施し、教育総合相談センターのハートフルフレンドボランティアと協会の青年ボランティアが協働で、児童・生徒の集団宿泊体験への支援を行いました。</p> <p>開催日：12月3日(木)～4日(金) 参加者数：153人(日帰り参加者、青少年ボランティア、職員を含む) 会場：横浜市野島青少年研修センター その他：日帰り企画として「もちつき大会」を実施。</p>	
2 青少年の自立支援に関する事業	
<p>青少年の自立支援を目的とする講座や体験活動を、若者自立支援の専門機関・団体および、青少年4施設と連携し実施しました。</p> <p>◆若者自立塾の活動支援</p> <p>野島研修センターにおいて、横浜型若者自立塾を開催しました。野島周辺の方々の協力を得て、海浜清掃や釣り船など海浜地域ならではの就労体験の機会を提供しました。</p> <p>また、「海ふれあい体験」や「カニ救出大作戦」など協会が実施する事業のスタッフ体験の機会も提供し、他者とコミュニケーションを図る実践の場としました。</p>	
3 居場所づくり支援	
<p>交流センターで蓄積したノウハウを活用し、青少年の地域活動拠点である生麦プロジェクトの支援や、これから居場所づくりを実施していく地域や団体などに対し研修等を実施しました。</p> <p>◆生麦プロジェクトの支援：通年 ◆武蔵野市「武蔵野プレイス」職員研修支援、他</p>	
4 青少年ボランティアの育成	
<p>青少年4施設で実施しているボランティア活動について、情報発信や説明会・研修会の共有を行いました。今年は、日常的な青少年の支援を行う交流センターと野島研修センターの2館において、説明会と研修会の共有を実施しました。</p>	

事業名（本部事業）	区分
<p>5 科学普及のためのアウトリーチ</p> <p>NPO等と協働で青少年向けの科学普及事業を実施した他、科学館天文ボランティアが青少年4施設や地域、学校で天文教室等を実施しました。</p> <p>開港150周年事業「JAXAタウンミーティング」との連携企画として、赤レンガ倉庫で移動式ミニプラネタリウムで星空の解説を天文ボランティアが実施しました。</p> <p>日時：8月23日（日） 参加ボランティア：8人</p>	
<p>VII 財政の強化</p>	G-I
<p>1 ボランティア育成基金の充実</p> <p>(1) 基金委員会 基金募集事業についての企画運営を協議し、基金の拡充を図っていくとともに基金運営についての協議を行いました。</p> <p>◆基金委員会の開催：9回</p> <p>(2) 基金募集事業 基金委員会を中心に、ボランティア育成基金募集のため「第49回爆笑！濱っ子寄席」や基金箱の設置等を行い基金拡大を図りました。</p> <p>◆第49回爆笑！濱っ子寄席 開催日：11月6日（金） 会場：関内ホール 出演者：古今亭八朝、三遊亭歌之介、ロケット団、林家正蔵、三遊亭小円歌、柳家権太楼 入場者：785人 主催：(財)横浜市青少年育成協会 (社)横浜中法人会 共催：(社)横浜青年会議所 横浜市こども青少年局</p> <p>◆その他の基金募集事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基金箱の設置 56か所 59個設置 ・基金のPRと協力のお願い：協会会員をはじめ多方面に働きかけました。 ・デジカメ講座の開催：全2回 参加者数68人 主にPTAを対象に撮影方法、広報紙等への写真構成、他 	
<p>2 自主財源の確保</p>	
<p>(1) 企業協賛の獲得 企業のCSR活動と青少年育成活動・ボランティア活動等のコーディネートを通じた企業協賛の獲得を図るとともに、地域へのアウトリーチ(営業活動)で把握したニーズに対する事業企画を提案し、地域と協働で青少年育成事業を展開しました。</p>	
<p>VIII 組織の強化</p>	G-II
<p>1 会員の充実</p> <p>協会活動を支えていただいている会員の皆様に、協会への理解をより一層深めていただくため情報提供(協会だより 年6回)、会員交流会(新春のつどい 参加者100人)を行いました。</p> <p>◆平成21年度会員数：798件</p>	
<p>2 本部機能の強化・職員育成</p> <p>公益三法の制定による新公益法人移行を平成22年度と定め、平成21年度は、担当課長の配置など事務局組織の強化を図りました。</p> <p>また、外部研修にも積極的に参加し、職員のスキルアップに努めました。</p>	

II キッズクラブ事業

1 放課後キッズクラブの運営

(1) 開設状況

協会の運営する20か所の放課後キッズクラブでは、在籍児童の54.2%(20校の平均値)が登録しました。

この1年間で各放課後キッズクラブ月平均約1,361人、総計326,706人が利用し、各放課後キッズクラブで実施したプログラム数は、毎月1キッズ平均約24回、年間総計5,665回でした。

区名	学校名 (小学校)	在籍 人数	登録 人数	参加者数	プログラム 実施数	特色ある主なプログラム内容
南区	太田	305	248	20,732	334	キャンプ/バドミントン/料理会/音楽会/手芸/木工/ペットボトル工作/花火/もちつき/読み聞かせ/おやつ作り/ドッジボールクラブ/サッカークラブ 等
港南区	港南台第三	337	214	12,209	295	科学実験/手品/バルーンアート/将棋・囲碁/木工/プレイパーク/ハワイアン・キルト/工作/ドッジボール/ハンドメイドクラブ/ランチ作り/漢字検定 等
旭区	笹野台	622	378	17,554	494	科学実験/折り紙/壁アート/手芸/万華鏡/リサイクル工作/発明クラブ/木工/染め物/ミサンガ作り/スポーツ・チャンバラ/ドッジボール/お話し会/フレンドロン 等
金沢区	能見台	608	332	22,491	365	テニス/英語でアート/科学実験/紙すき/キッズ縁日/スポーツ・チャンバラ/工作/手芸/紙芝居/段ボール・ハウス/トンチャイム/ラッピング講座/ 等
緑区	長津田	468	289	14,436	297	昔遊び/ステンドグラス/科学実験/読み聞かせ/編み物/ドッジボール/将棋/カレンダー作り/ペットボトル工作/ミニ運動会/楽器づくり/バドミントン 等
都筑区	折本	697	325	18,775	332	絵本/将棋/科学工作/手品/リース作り/編み物教室/年賀状づくり/フラダンス/星空観察/バドミントン/勾玉づくり/水遊び/キッズに泊ろう/ドッジボール 等
戸塚区	秋葉	636	371	18,235	286	昔遊び/カブラ/中学生と遊ぼう/絵画体験/キャンプ/押し花/スケート/ミサンガ作り/スポーツ・チャンバラ/スイカ割り/バドミントン/フラダンス/ドッジボール 等
瀬谷区	南瀬谷	897	402	20,651	304	絵のはぎ教室/ケアブラザ訪問/お話し会/バドミントン/サッカークラブ/宿泊体験/凧づくり/農園/カレンダー作り/工場見学/カプトムシ観察/ 等
鶴見区	寺尾	690	306	17,970	313	お花見/まち探検/暑中見舞い/合気道/スケート/茶道/初詣/トスペース/ドッジボール/カブラ/卓球/運動会/切り絵/稲作り観察/万華鏡づくり 等
西区	宮谷	931	463	21,188	236	キッズ縁日/卓球/バドミントン/和紙染め/楽器作り/鏡開き/工作/ドッジボール/水墨画教室/トータムボール作り/科学実験/フラダンス/生け花 等
中区	本町	582	355	19,798	293	編み物/壁画アート/工作/縁日/バルーンアート/ギター教室/手芸/卓球/ドッジボール/望遠鏡作り/ブーメラン作り/オセロ大会/バター作り/梨狩り 等
磯子区	岡村	384	222	13,257	201	昔遊び/シャボン玉/野菜づくり/夏祭り/ミサンガ/リサイクル工作/グランドゴルフ/ドッジボール/壁画アート/ミニサッカー/折り紙教室/バドミントン 等
港北区	日吉南	626	341	15,521	250	キッズ工房/ステンドグラス/ドッジビー/ビンゴ大会/凧づくり/万華鏡づくり/横浜FCと遊ぼう/読み聞かせ/AED親子講習/カブラ/地域クリーン活動/ドッジボール 等
青葉区	すすき野	491	335	16,458	280	勾玉づくり/折り紙検定/バスケットボール/グランドゴルフ/科学実験/シャボン玉/サンマ炭火焼/バドミントン/夏祭り/指あみ/百人一首/将棋・囲碁/ドッジボール 等
栄区	桜井	387	233	10,804	210	紙芝居/囲碁・将棋/手芸/ニュースポーツ教室/キャンプ/工作/ドッジボール/昔遊び/キッズ縁日/ミュージック・ベル/バスケットボール/花火大会/合気道教室 等
都筑区	荏田東第一	432	214	10,180	225	切り絵教室/キッズ縁日/編み物/地域探検/工作/プレイパーク/スライム/花火大会/すもう/ドッジボール/せみとり/スイカ割り/カブラ/一輪車/お雛様づくり 等
戸塚区	名瀬	600	304	15,285	275	折り紙/ドッジボール/昔遊び/散歩/カブラ/キッズ探検/読み聞かせ/川遊び/壁画アート/手芸/土偶づくり/キッズ縁日/科学実験/茶道/将棋教室/フォトスタンド 等

協会の事業

区名	学校名 (小学校)	在籍 人数	登録 人数	参加者数	プログラム 実施数	特色ある主なプログラム内容
神奈川区	浦島	441	200	13,382	164	折り紙／ドッジボール／昔遊び／散歩／カブラ／キッズ探検／読み聞かせ／川遊び／壁画アート／手芸／横浜FCと遊ぼう／3B体操／ドミノ／けん玉検定／貝殻アート 等
保土ヶ谷区	権太坂	647	321	15,827	283	看板づくり／ドッジボール／トスペース／オセロ大会／横浜FCと遊ぼう／キッズ農園クラブ／窓ガラスアート／工作／編み物／クリスマス会／お菓子の家づくり／カブラ 等
金沢区	瀬ヶ崎	524	274	11,953	228	カレンダー作り／地域探検／ドッジボール／カブラ／演劇部／工作／編み物／応援団活動／出張映画館／高学年の折り紙教室／お菓子の家づくり／環境保護活動／囲碁 等

2 研修等の実施

横浜市こども青少年局放課後児童育成課が実施している放課後三事業（はまっ子ふれあいスクール280か所・放課後児童クラブ（学童保育）189か所・放課後キッズクラブ69か所）合計538か所のスタッフを対象とした110講座の研修を企画・運営し、1,576人が参加しました。

事業名（放課後児童育成推進）	区分
1 放課後児童育成に携わる放課後三事業の全スタッフを対象とした研修	A-I
(1) 食品衛生の基本 開催：6月5日(金) 育成センター 参加者：71人 内容：「食品衛生管理の基本と食物アレルギーについて学ぶ」 (2) 特別な配慮を要する児童の理解（同一内容 3回） 育成センター 開催：①6月8日(月) ②8月19日(水) ③9月30日(水) 参加者：①70人 ②63人 ③56人 内容：「障害の種類・特性について理解し、基本的な対応を学ぶ」 (3) 安全管理（同一内容 2回） 育成センター 開催：①8月21日(金) ②8月26日(水) 参加者：①27人 ②29人 内容：「子どものケガ・病気への対処法を学ぶ」 (4) 防犯教室（同一内容 2回） 技能文化会館 開催：①7月9日(木) ②7月16日(木) 参加者：①65人 ②44人 内容：「日常の防犯対策と児童の誘拐防止について学ぶ」 (5) 心肺蘇生法 開催：6月25日(木) 技能文化会館 参加者：67人 内容：「基礎知識について学ぶと共に、ダミーを用いた実技を行う」 (6) 包帯・止血法 開催：6月16日(火) 技能文化会館 参加者：67人 内容：「基礎知識について学ぶと共に、実技を行う」 (7) ボランティア活動 開催：6月15日(月) 育成センター 参加者：22人 内容：「ボランティア活動の理解と受け入れ」 (8) 子どもの人権 開催：8月20日(木) 育成センター 参加者：24人 内容：「児童虐待の実態と基本的な対処法」	

事業名（放課後児童育成推進）	区分
<p>(9) 個人情報の取り扱い 開 催：8月25日(火) 育成センター 参加者：14 人 内 容：「個人情報の取り扱いの注意点について、具体的事例を基に解説」</p> <p>(10) 子どもの社会的スキル（同一内容 2回） 開 催：①9月8日(火) 育成センター ②9月11日(金) 育成センター 参加者：①31人 ②26人 内 容：「子どもの現状を踏まえ、不足している社会的スキルをロールプレイを通して学ぶ」</p> <p>(11) 保護者への対応 開 催：9月4日(金) 育成センター 参加者：48人 内 容：「事例を基に、要求と対応をグループディスカッションにより学ぶ」</p> <p>(12) 発達障害児の理解と対応（同一内容 2回、2回連続講座） 開 催：①9月10日(木)、18日(金) ②9月25日(金)、29日(火) 参加者：①19人、15人 ②24人、23人 内 容：「発達障害児について学び、2日目で実際に困っている事例についてグループ内で議論」</p> <p>(13) 障害児対応にかかる専門研修（3回連続講座） 開 催：①10月9日(金)、②21日(水)、③27日(火) 育成センター 参加者：①20人、②21人、③18人 内 容：①「自閉性障害の理解」 ②「各クラブの事例への対応ワンポイント」 ③「自閉性障害の仮想事例についてグループ討議」</p> <p>(14) 室内遊びを楽しむⅠ 開 催：10月2日(金) 育成センター 参加者：59人 内 容：「アンデルセンバックと裂き織りコースターを作ろう」</p> <p>(15) 室内遊びを楽しむⅡ 開 催：12月3日(木) 育成センター 参加者：39人 内 容：「折紙で十二面体、透かしボックスを作ろう」</p>	
<p>2 放課後児童クラブ（学童保育）のスタッフを対象とした研修</p>	<p>A-I</p>
<p>(1) 子どもの安全～野外活動編～（同一内容 2回） 開 催：①7月1日(水)、②7月6日(月) 横浜市開港記念会館 参加者：①47人、②43人 内 容：「野外活動時の子ども達の安全を確保するとともに、自らの身を守るように出来るかについて講義とグループワークを通して学ぶ」</p> <p>(2) 発達障害児の理解と対応（同一内容 2回） 開 催：①11月19日(木)、②12月17日(木) 技能文化会館 参加者：①72人、②75人 内 容：「発達障害児の特性を学ぶとともに保護者を含めた対応について学ぶ。2日目は、各クラブで気になる児童のレポートについての対応や代表クラブの発表を通して、関わり方の工夫を学ぶ」</p>	

事業名（放課後児童育成推進）	区分
<p>3 放課後キッズクラブのスタッフを対象とした研修（新設、及び既存の放課後キッズクラブ）</p> <p>A-I</p> <p>(1) 放課後キッズクラブスタッフ研修</p> <p>協会の運営する20か所のスタッフを対象とした16講座の研修を企画・運営し、283人が参加しました。</p> <p>① スキルアップ講座（交流センター）</p> <p>内 容：「身近にある材料や折紙を使ったクラフト」</p> <p>①4月28日（火） カーネーション（16人）</p> <p>②5月12日（火） はばたく鳥（14人）</p> <p>③6月9日（火） コマ（11人）</p> <p>④7月14日（火） マイ団扇（14人）</p> <p>⑤8月11日（火） セパタクロー（10人）</p> <p>⑥9月8日（火） マジックスティックととんぼ（12人）</p> <p>⑦10月14日（水） ピョンピョンうさぎ（10人）</p> <p>⑧11月10日（火） カード（クリスマス・年賀状・バースディ用）（18人）</p> <p>⑨12月8日（火） 凧（7人）</p> <p>⑩1月13日（水） 紙飛行機（11人）</p> <p>⑪2月9日（火） 万華鏡（16人）</p> <p>⑫3月9日（火） 風車（9人）</p> <p>② 子どもの社会的スキル（同一内容 3回、育成センター）</p> <p>開 催：①7月14日（火）、②16日（木）、③17日（金）</p> <p>参加者：①15人、②22人、③20人</p> <p>内 容：「今の子どもの現状を踏まえ、不足している社会的スキルをロールプレイを通して学ぶ」</p> <p>③ 障害児対応－自閉性障害を中心として－（4回連続講座 育成センター）</p> <p>開 催：①11月6日（金） 発達障害の基礎知識と対応の基本</p> <p>②11月18日（水） 大切なワンポイント－事例レポートに応じて－</p> <p>③11月24日（火） コンサルテーションの実際－具体的事例を通して－</p> <p>④11月27日（金） グループディスカッション－課題事例の検討－</p> <p>参加者：①21人、②20人、③20人、④19人</p> <p>内 容：「発達障害児、特に自閉症を中心に理解することを通して、その児童に応じた、よりの確な対応手法を学ぶ」</p> <p>(2) 新規採用職員の研修（他法人が運営する放課後キッズクラブの職員も対象）</p> <p>① 9月開設キッズスタッフ研修</p> <p>9月1日（火）に開設した1か所の常勤スタッフ2人と新規採用主任指導員及び指導員26人を対象に、放課後キッズクラブ運営に必要な基礎知識の理解や習得を目的として、7月から8月の2か月間、安全教育等25項目の研修、既設の放課後キッズクラブや特別支援校での実習を行いました。</p> <p>また、新規採用の補助指導員に対しても、1日研修（4項目）を2回実施し74人の参加がありました。</p>	

事業名（放課後児童育成推進）	区分
<p>② 3月開設キッズスタッフ研修</p> <p>平成22年3月1日（月）に開設した4か所の常勤スタッフ7人と新規採用主任指導員及び指導員18人を対象に、キッズクラブ運営に必要な基礎知識の理解や習得を目的として、1月から2月の1か月間、安全教育等21項目の研修を行いました。</p> <p>また、新規採用の補助指導員に対しても、1日研修（4項目）を2回実施し52人の参加がありました。</p>	

3 会議等の実施

協会の運営する20か所の放課後キッズクラブ毎に評議会や保護者会を開催するとともに、放課後キッズクラブ主任指導員、及び指導員の会議を定期的に行い、情報交換等を行いました。

事業名（放課後児童育成推進）	区分
<p>1 評議会</p> <p>20か所の放課後キッズクラブ毎に評議会を開催し、委員の方から様々な意見を伺いました。</p> <p>開催回数：各2回 ※本町小キッズは1回</p>	A-I、II
<p>2 保護者会</p> <p>20か所の放課後キッズクラブで総計50回の保護者会を開催し、保護者からの意見や要望を聞く機会を設けました。</p>	A-I、II
<p>3 主任指導員会議</p> <p>20か所の主任指導員を対象に、精算業務や事務連絡等を含めながら放課後キッズクラブ間での情報交換を行いました。 開催回数：11回 ※合同会議：3回</p>	A-I、II
<p>4 指導員会議</p> <p>20か所の指導員を対象に、事務連絡や報告等を含めながら協会内各放課後キッズクラブ間での情報交換を行いました。 開催回数：6回 ※合同会議：3回</p>	A-I、II
<p>5 全放課後キッズクラブを対象とした取り組み</p> <p>平成21年度までに開設した放課後キッズクラブ（69か所）に対して、よりよい運営を進めるために、運営マニュアル等の作成、及び配布を行いました。</p> <p>(1) 運営マニュアルの作成及び配布</p> <p>①運営編</p> <p>横浜市内の各放課後キッズクラブの運営に関して、できるだけ一定した対応がなされるようにするために、補助金制度の変更等や事務の流れ等について「マニュアル」を作成し、全キッズ・各運営法人、及び各区役所に配布しました。</p> <p>※3月発行（全体124頁綴り）200部作成</p> <p>(2) キッズ対抗ドッジボール大会</p> <p>協会が昨年同様実行委員会方式にて、第4回ドッジボール大会を企画・実施しました。</p> <p>開催日：3月30日（火）</p> <p>横浜文化体育館にて19キッズによる対抗戦を実施しました。なお、低学年の部と高学年の部を設定し34チームが参加しました。</p> <p>参加者：児童548人／スタッフ122人／ボランティア3人／児童引率保護者135人 見学者：保護者等190人/その他3人 総計1,001人</p> <p>※当日は、タカナシ乳業(株)からジュース768個を提供していただきました。</p>	A-I、II

Ⅲ 指定管理事業

1 横浜市青少年育成センター

事業名（指定管理事業：育成センター）	区分
<p>1 ボランティア情報スポット</p> <p>青少年指導者・育成者、NPO等を支援することで、地域での青少年活動の活性化を図っていくとともに、中間支援組織としての機能を発揮する取り組みを行っています。</p> <p>青少年育成活動に関する情報収集・提供、相談、コーディネートや講座、研修会の開催、ネットワーク支援などを行いました。</p> <p>(1) 情報収集・提供、相談、コーディネート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報収集・提供（「こどもに関わる夏のボランティア」ガイドブックの発行 発行部数：4,500部）協会4施設とキッズクラブの夏季ボランティアの募集冊子を関係機関で配布 ・相談業務、活動コーディネート（相談件数：142件） <p style="padding-left: 2em;">主な相談内容：ボランティア先の紹介、相談機関紹介（ひきこもり・ニート）など</p> <p style="padding-left: 2em;">主なコーディネート：事業企画相談（共催も含む）、講師紹介（講座参加者）、他</p> <p>(2) 講座・研修</p> <p>■救急法（AED）講習会（共催）全2回</p> <p>開催日：①日赤救急法講習会 6月13日(土)、14日(日)、20日(土)、21日(日) 参加者：31人</p> <p style="padding-left: 2em;">②9月救急法講習会 9月20日(日)、21日(月祝)、22日(火祝) 参加者：25人</p> <p style="padding-left: 2em;">③11月日赤救急法講習会 11月14日(土)、15日(日)、21日(土)、22日(日) 参加者：24人</p> <p>運営：①②救急法講習運営会（受講者OBの会）と共催</p> <p style="padding-left: 2em;">③ボーイスカウト横浜みなと地区と共催</p> <p>■カウンセリング講習会（共催）</p> <p>開催日：①講演会「現代の子どもたちとカウンセリング」7月12日 参加者：31人</p> <p style="padding-left: 2em;">②カウンセリング初心者講習会</p> <p style="padding-left: 2em;">前期 11月10日(火)、17日(火)、24日(火)、12月1日(火)、8日(火)（5日間）参加者：33人</p> <p style="padding-left: 2em;">後期 1月19日(火)、26日(火)、2月2日(火)、16日(火)、23日(火)（5日間）参加者：18人</p> <p>運営：①②横浜相談ボランティア研究会（受講者OB）と共催</p> <p>■スキルアップ研修</p> <p>開催日：①提案発表のコツを学ぶ実習 9月12日(土) 参加者：13人</p> <p style="padding-left: 2em;">②相手の力を引出すコーチング入門実習 9月5日(土) 参加者：26人</p> <p style="padding-left: 2em;">③子どもをのばす対話力向上講座 8月23日(日) 参加者：22人</p> <p style="padding-left: 2em;">④「会議をまとめる術」入門実習 10月17日(土) 参加者：22人</p> <p>内容：①プレゼンテーションの講義と演習。NPOの会員が講師を務めた。</p> <p style="padding-left: 2em;">参加費：1000円</p> <p style="padding-left: 2em;">②参加者が基本的な考え方や技法を理解するためのコーチングの入門実習。ボランティア団体の共育コーチング研究会と共同主催。参加費1000円。</p> <p style="padding-left: 2em;">③子どもをのばす対話力を参加者が習得する講習。ボランティア団体の共育コーチング研究会と共同主催。参加費無料</p> <p style="padding-left: 2em;">④ファシリテーターの講義と演習。NPOの会員が講師を務めた。</p> <p style="padding-left: 2em;">参加費：1500円</p>	D-I, II E-I

事業名（指定管理事業：育成センター）	区分
<p>■発達障害支援者のためのネットワークセミナー（共催）</p> <p>開催日：①学校関係者向け 7月18日（土） 参加者：36人 ②医療関係者向け 11月28日（土） 参加者：25人</p> <p>運営：①②社会福祉法人横浜山びこの里（横浜市発達障害支援センター）と共催</p> <p>内容：①②発達障害者と福祉サービスに関する啓発セミナーを開催し、情報交換の機会を提供することで、支援者同士のネットワークを形成する。</p> <p>■ニート支援セミナー</p> <p>開催日：①若者就職支援講座 「ものづくりジョブセミナー」（共催）9月18日（金） 参加者7人 ②講座「ひきこもりの理解と対応」1月23日（土） 参加者48人</p> <p>運営：①ユースポート横浜と共催 ②横浜市青少年相談センターの方がボランティアで講師を務めた。</p> <p>内容：①過去のデータをもとに、ものづくり中小企業の現状と魅力、若者の人材の必要性を伝える。 ②ひきこもりの若者に対する親や支援者の関り方の講義、および、横浜市内の公的機関の支援サービスの内容の紹介。参加費無料</p> <p>■ボランティア入門講座</p> <p>開催日：①実習「子どもの救急手当」4月18日（土） 参加者：25人 ②身の回り品で小学生の救急手当 7月25日（土） 参加者：25人 ③子どものいじめ予防で大人たちにできること 12月19日（土） 参加者：16人 ④講座「遊ぶ子に危ないからダメという前に」2月6日（土） 参加者：21人</p> <p>運営：①救急法講習運営会（受講者OBの会）と協働。講師は日赤 ②指導は中消防署 ③CAPかながわと協働 ④講師NPO法人「フレイグ・ラウンド・セーフティ・ネットワーク」</p> <p>内容：①②青少年育成活動に役立つ緊急対応スキルの習得。 参加費無料 ③子ども達が暴力の被害者、加害者にも傍観者にもならないために大人たちにできること。 参加費無料。 ④子どもの遊具や遊ばせ方の工夫事例をとおして、「冒険や挑戦といった良い危険（リスク）と事故を発生させる要因の悪い危険（ハザード）」の考え方を参加者が学ぶ。 参加費1000円</p> <p>■学校教育相談研修講座（共催）</p> <p>開催日：6月27日（土）、8月22日（土）、29日（土）、11月7日（土）、12月5日（土） 参加者数：499人</p> <p>運営：日本学校教育相談学会「神奈川」と共催し午前の部、午後の部で開催</p> <p>内容：教師に、児童・生徒の「こころ」に寄り添い、共に育ちあう学校教育相談活動に役立つ情報を提供。</p> <p>■栄養の話とバター作り実習</p> <p>開催日：7月31日（金） 参加者数：47人</p> <p>運営：明治乳業㈱の企業協賛で実施。</p> <p>内容：栄養の話（講義）とバター作り実習。 参加費無料</p>	

事業名（指定管理事業：育成センター）	区分
<p>■新聞づくり講習会</p> <p>開催日：①新聞づくり講習会1日 6月12日(金) 参加者：11人 ②新聞づくり講習会半日 5月19日(火)、26日(火)、6月5日(金) 参加者：178人 ③新聞添削教室 6月24日(水)、11月24日(火) 参加者：45人(19校) ④新聞アドバンス講座 11月24日(火) 参加者：56人 ⑤作品コンテスト 11月13日(金) 参加者：74校</p> <p>運営：共催：横浜市PTA連絡協議会 後援：横浜市教育委員会 講師：横浜PTA新聞研究会 内容：新聞づくりの基礎習得、作品の添削、コンテスト、他。 参加費①1500円②1500円③無料④講座500円</p> <p>■講座「インターネットの罠に注意」</p> <p>開催日：5月23日(土) 参加者：18人 運営：NPOガーディアンエンジェルスが講師を派遣した。 内容：子どもたちがインターネットを利用する際、何に気をつけさせたらよいのかを参加者が学ぶ。 参加費無料</p> <p>■子どもの携帯電話安心講座</p> <p>開催日：7月11日(土) 参加者：6人 運営：e-ネットキャラバン運営協議会がテキストを用意し、講師を派遣。 内容：インターネット上の「いじめ」対応等、子どものケータイをめぐる安全安心のために、大人はどう対応したらよいかを学ぶ。 参加費無料</p> <p>■横浜開港150周年記念イベント「横浜市青少年5団体のつどい」横浜FUNEプロジェクト（後援）</p> <p>開催日：6月13日(土)～14日(日) 1泊2日 参加者：496人(宿泊159人 13日/日帰り164人 14日/日帰り173人) 運営：主催：横浜市青少年5団体、(財)横浜開港150周年協会 後援：(財)横浜市青少年育成協会、創造都市事業本部他 事前調整：育成センター 現場調整：野島研修センター 内容：横浜開港150周年記念イベント横浜FUNEプロジェクトに参画し、横浜市青少年5団体のつどいの仲間が団体間の枠をこえて、FUNEの政策を通して団結化と更なる発展を図る。</p> <p>■「青少年に関わる大人の講座」 青少年育成者講座</p> <p>開催日：12月10日(木)講義、12月～1月 見学・体験、1月28日(木) ふりかえり共有 2月中 実習、 2月20日(土)、21日(日) 居場所フォーラム参加 参加者：14人 運営：講座と実習・見学を各施設が分担 内容：青少年の可能性を広げ、社会・地域と青少年とをつなぐことのできる人材の発掘・育成。座学だけでなく、協会施設をはじめ、実際に青少年の集まる居場所でのスタッフ体験を行い「体験・実習」を組み入れ、実践の場へ繋げる。 参加費無料</p> <p>■横浜市学校保健大会第3分科会（共催）</p> <p>開催日：1月21日(木) 参加者：80人 運営：主催：横浜市と横浜市学校保健会。関内ホールとの連携事業。 内容：学校保健関係の職員・技術職員・団体職員が今日的な課題について研究協議を行い、横浜市学校保健の推進を図る。</p>	

協会の事業

事業名（指定管理事業：育成センター）	区分
<p>■その他</p> <p>協賛事業：中消防署救急救命講習会</p> <p>後援事業：こども作法教室(9回)、親子将棋教室、横浜バンコク青年交流</p> <p>(3) ネットワーク支援</p> <p>他の専門機関と共催で事業を実施することで関係の強化に努めました。</p>	
<p>2 研修室・スタジオ等の貸出</p> <p>青少年指導者・育成者、及び青少年の活動の場として、研修室、音楽スタジオ、和室を貸し出しました。</p> <p>(1) 研修室1 利用団体数：810件 (6) ミーティングルーム利用人数：6,115人</p> <p>(2) 研修1 室利用人数：28,712人 (7) 和室利用団体数：604人</p> <p>(3) 研修室2 利用団体数：695件 (8) 和室利用人数：6,529人</p> <p>(4) 研修2 室利用人数：10,911人 (9) スタジオ利用団体数：1,359件</p> <p>(5) ミーティングルーム利用団体数：705件 (10) スタジオ利用人数：4,444人</p>	D-I, II, E-I
<p>3 青少年活動団体の事務局支援機能</p> <p>青少年育成団体等の活動支援を目的に、印刷機・コピー機の貸出や軽作業の場を提供しました。</p> <p>利用件数：638件</p>	D-I, II, E-I
<p>4 活動物品の貸出</p> <p>着ぐるみの活動物品の貸出を行い、地域の青少年活動を支援しました。</p> <p>貸出件数：101件</p>	D-I, II, E-I
<p>5 運営の検証と改善（利用者協議会）</p> <p>センター利用者、青少年育成活動者、協会職員等で構成する利用者協議会において、施設としての役割を十分果たせるよう、機能の促進、取り組みの検証を行い、効率的・効果的な運営のための見直しを行いました。</p> <p>・利用者アンケートの実施 実施期間：10月1日(木)～11月15日(日) 回答数：123件</p> <p>・育成センター交流会 開催日：3月19日(金)、20日(土) 参加者：9団体</p>	D-I, II, E-I

2 横浜市青少年交流センター

事業名（指定管理事業：交流センター）	区分
<p>1 青少年委員会の運営</p> <p>青少年の声を施設運営に活かすとともに、中高生をはじめとした青少年自身の自主活動の中核を担ってもらうよう交流センター開館以来、委員会を設置しています。</p> <p>広報紙の発行など自主企画の定着を図るとともに、子どもを対象とした自主イベントを毎月開催しました。また、センターを利用する青少年が企画する事業や、他のボランティアの活動支援等リーダーとして活躍しました。</p> <p>(1) 青少年委員会の構成：中学生から24歳までの青少年 23人</p> <p>(2) 定例会：12回開催（毎月第2日曜日） 広報紙、イベント企画等の打合せ 他</p> <p>(3) 広報紙の発行「君にふらっと☆」 年3号発行（毎回200部）</p>	D-I, II, E-I

事業名（指定管理事業：交流センター）	区分																											
<p>(4) 青少年委員企画事業</p> <table border="0"> <tr> <td>①「ワイワイおやつタイム」</td> <td>年10回開催</td> <td>参加者数：125人</td> </tr> <tr> <td>②「ふりふら夏祭り」</td> <td>【新規】7月21日(火)</td> <td>参加者数：55人</td> </tr> <tr> <td>③「納涼！きもだめし大会」</td> <td>8月29日(土)</td> <td>参加者数：145人</td> </tr> <tr> <td>④「お点前体験(萌木の会)」</td> <td>9月12日(土)</td> <td>参加者数：64人</td> </tr> <tr> <td>⑤「Y150トークショー」</td> <td>【新規】9月22日(火祝)</td> <td>参加者数：30人</td> </tr> <tr> <td>⑥「宿泊研修」</td> <td>9月26日(土)27日(日)</td> <td>参加者数：18人</td> </tr> <tr> <td>⑦「ハロウィン」</td> <td>10月25日(日)</td> <td>参加者数：64人</td> </tr> <tr> <td>⑧「かどもっちい〜」</td> <td>12月23日(水祝)</td> <td>参加者数：196人</td> </tr> <tr> <td>⑨「ふりふらフェスタ」</td> <td>【新規】3月23日(火)</td> <td>参加者数：88人</td> </tr> </table>	①「ワイワイおやつタイム」	年10回開催	参加者数：125人	②「ふりふら夏祭り」	【新規】7月21日(火)	参加者数：55人	③「納涼！きもだめし大会」	8月29日(土)	参加者数：145人	④「お点前体験(萌木の会)」	9月12日(土)	参加者数：64人	⑤「Y150トークショー」	【新規】9月22日(火祝)	参加者数：30人	⑥「宿泊研修」	9月26日(土)27日(日)	参加者数：18人	⑦「ハロウィン」	10月25日(日)	参加者数：64人	⑧「かどもっちい〜」	12月23日(水祝)	参加者数：196人	⑨「ふりふらフェスタ」	【新規】3月23日(火)	参加者数：88人	
①「ワイワイおやつタイム」	年10回開催	参加者数：125人																										
②「ふりふら夏祭り」	【新規】7月21日(火)	参加者数：55人																										
③「納涼！きもだめし大会」	8月29日(土)	参加者数：145人																										
④「お点前体験(萌木の会)」	9月12日(土)	参加者数：64人																										
⑤「Y150トークショー」	【新規】9月22日(火祝)	参加者数：30人																										
⑥「宿泊研修」	9月26日(土)27日(日)	参加者数：18人																										
⑦「ハロウィン」	10月25日(日)	参加者数：64人																										
⑧「かどもっちい〜」	12月23日(水祝)	参加者数：196人																										
⑨「ふりふらフェスタ」	【新規】3月23日(火)	参加者数：88人																										
2 青年ボランティアの育成	D-I, II, E-I																											
<p>青少年に子どもを対象としたボランティア活動等の場を提供しました。年齢や学校が異なる青少年や大人と関わり、新たな自分を発見する機会となりました。夏期青年ボランティア(中学生含む)への参加がきっかけとなり、次年度には青少年委員になった青少年もいました。</p> <p>(1) 夏期青年ボランティア（事前説明会、事前研修会、交流会事後研修会 含む） 活動期間：8月1日(土)～8月30日(日)の期間中、各自5日～10日間活動 参加者数：43人（高校生から勤労青年） 説明会：7月14日(火)、18日(土)、22日(水)、事前研修会：7月25日(土) 事後研修会：8月30日(日)</p> <p>(2) 高校生による道志村水源林ボランティア <横浜市水道局> 活動期間：8月8日(土) 参加者数：45人（高校生）</p> <p>(3) 小学校体験学習ボランティア 活動期間：通年、登録者数：46人 派遣依頼：109件、成立40件 活動人数40人</p>																												
3 ロビーワークの充実	D-I, II, E-I																											
<p>ロビーワークの充実のため、施設スタッフのスキルアップ、及び青年ボランティアの導入によるスタッフ体制の充実を図り、居場所としての質的向上を図りました。</p> <p>(1) コーディネーター会議 開催回数：12回（毎月1回） 内 容：ロビーワークについて、フリースペース有効活用について 他</p> <p>(2) 施設スタッフ研修 青少年の居場所づくりフォーラム参加</p> <p>(3) 社会教育実習（大学生）【新規】 ①駒沢大学 各自14日間 受入者数：4人 ②湘南工科大学 各自50時間 受入者数：5人</p> <p>(4) ユースボランティア 活動期間：通年 ※交流センターで日常的に活動 参加者数：3人（高校生から勤労青年）</p>																												

事業名（指定管理事業：交流センター）	区分										
4 場の提供	D-I, II, E-I										
<p>(1) 自主的な活動の場（講座・研修会を含む）</p> <p>青少年の活動拠点としてできる限り制限を設けず会議室、スタジオ等、部屋の貸出しを行いました。また、青少年の自主的な活動の支援、多様な経験ができる講座を行いました。</p> <p>協約目標：年間青少年利用者数 76,000人</p> <table border="1" data-bbox="306 416 1145 515"> <thead> <tr> <th>開館日数</th> <th>全体利用者数</th> <th>青少年利用</th> <th>青少年1日平均</th> <th>貸館稼働率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>347日</td> <td>170,085人</td> <td>92,870人</td> <td>267人</td> <td>63%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※演奏室、スタジオ、多目的室、レクホールにおいては80%の稼働率</p> <p>① 青少年の持ち込み企画の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコキャップライブ（エコの音）【新規】 7月26日（日） 参加者数：70人 ・ルーマニア活動報告会（ハビタットMGU）【新規】 7月5日（日） 参加者数：20人 ・ふりふら劇場 9月16日（水）～18日（金） 参加者数：51人 ・カードゲーム大会 2月13日（土） 参加者数：18人 <p>② 夏休み事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将棋・碁・オセロの日【新規】 7月18日（土）、8月1日（土）22日（土） 参加者数：26人 ・大縄跳びの日【新規】 7月29日（水）、8月5日（水） 参加者数：30人 ・木工教室 【新規】 7月31日（金）、8月6日（木） 参加者数：19人 ・もくねんさんで遊ぼう【新規】：8月3日（月） 参加者数：16人 ・絵を描こう 8月20日（木） 参加者数：20人 ・フラワーアレンジメント【新規】：8月21日（金） 参加者数：15人 <p>(2) 多様な個別支援の場 / 社会性を身に付ける場</p> <p>ロビーワークを通じた相談対応や、「ふらっとカフェ」、ボランティア活動（青年ボランティアの育成を参照）を通して、青少年の興味に合わせた交流の機会、異年齢の青少年の交流の機会を設けました。</p> <p>◆ 交流スペース利用者数：45,854人</p> <p>(3) 地域や保護者との連携と交流の場</p> <p>施設の利用者同士や地域の大人と出会い相互理解を深めるための交流事業、成果発表会、及び親子で参加できる体験事業等を行いました。</p> <p>① こどもの日まつり</p> <p>開催日：5月5日（火祝）</p> <p>内容：クラフト、お茶教室、アトラクション、模擬店、他</p> <p>参加者数：405人、ボランティア40人</p> <p>② 夏休みドッジボール大会 8月25日（火） 参加者数：35人</p> <p>③ 春の卓球大会 3月29日（月） 参加者数：35人</p> <p>④ ふらっとキッズ＜おもちゃのはこ＞</p> <p>開催回数：6回（4月24日（金）、6月26日（金）、7月24日（金）、10月23日（金）、11月27日（金）、1月22日（金））</p> <p>内容：乳幼児親子の歌や音楽、手遊び、他 参加者数：164人</p> <p>⑤ ふりーふらっと音楽コンサート＜おもちゃのはこ＞</p> <p>開催回数：4回（5月22日（金）、9月25日（金）、12月25日（金）、2月26日（金）） 参加者数：94人</p> <p>内容：乳幼児親子の歌や音楽、手遊び、他</p>	開館日数	全体利用者数	青少年利用	青少年1日平均	貸館稼働率	347日	170,085人	92,870人	267人	63%	
開館日数	全体利用者数	青少年利用	青少年1日平均	貸館稼働率							
347日	170,085人	92,870人	267人	63%							

事業名（指定管理事業：交流センター）	区分
<p>⑥ @楽祭（あつとがくさい） 開催回数：2回（6月29日（月）、11月16日（月）） 内 容：センター利用者の成果発表会 17団体出演 参加者数：233人</p> <p>⑦ 青少年ライブ 開催回数：3回（8月19日（水）、12月20日（日）、3月28日（日）） 36バンド出演 参加者数：400人 内 容：ライブ企画、バンド発表、ステージ演出、他</p> <p>⑧ クラフト教室 毎月第2日曜（5, 8月を除く） 開催回数：10回 参加者数：120人</p> <p>⑨理科あそび 開催回数：4回（6月27日（土）28日（日）、8月4日（火）・11日（火）） 参加者数：43人 内 容：湘南工科大生が、かがくの楽しさを教える</p> <p>⑩ チャレンジ親子体験塾「クワガタ研究会」 開催回数：5回（5月18日（月）、7月13日（月）、9月21日（月祝）、12月7日（月）、3月8日（月）） 参加者数：188人 内 容：国産クワガタの飼育教室</p> <p>(4) 将来について考える場 事業参加やロビーワークを通して、青少年が自分自身を見つめ直し、社会へのつながりを感じられる支援を行いました。また大学生による進路相談会や、企業人による仕事の話等、将来の目標を見つけるきっかけを作る事業を行いました。</p> <p>①「横浜国立大学キャリアカフェ」 <横浜国立大学> 開催回数：3回（6月12日（金）～20日（土）、12月8日（火）～11日（金）、1月18日（月）～23日（土）） 参加者数：170人 内 容：大学生が、大学生活や受験勉強について高校生に語る。</p> <p>②「ふりふらジョブカフェ」 開催日：8月5日（水）、8月22日（土）、1月31日（日） 参加者数：35人 内 容：海外で生活する編、小学校の先生編、公務員編</p>	
<p>5 居場所づくりの推進</p>	<p>C-I</p>
<p>交流センターの居場所づくりに関するノウハウを共有するために青少年の居場所づくりフォーラムや各区の居場所推進担当職員会議を実施するとともに、区の取り組みと連携し居場所づくりを推進しました。</p> <p>① 青少年の居場所づくりフォーラム開催 <日本青年都市会議、横浜市と共催> 開催日時：2月20日（土）、21日（日） 参加者数：120人 内 容：公開シンポジウム、情報交換会、交流会、分科会、他</p> <p>② 区の取り組みとの連携 鶴見区の「まちの力で育む青少年育成モデル事業（生麦プロジェクト）」、及び協会のボランティア育成基金運用事業「学校教育と連携した地域人材活用システム事業（十日市場中学校地域交流事業）」の実施場所の緑区と連携し、青少年の居場所事業を推進しました。</p>	
<p>6 運営の検証と改善</p>	<p>D-I, II, E-I</p>
<p>センター利用者、青少年委員、ボランティア等の意見やアンケートにより、効率的・効果的な運営の見直しを行いました。</p> <p>アンケートの実施 回答件数：107件 意見内容：スタジオ機器類の不具合に対する意見が多く寄せられ、迅速な対応に努めました。</p>	

3 横浜市野島青少年研修センター

事業名（指定管理事業：研修センター）	区分
<p>1 集団宿泊体験の場の提供</p> <p>施設の特長を生かし「自ら直接体験する機会」を集団宿泊体験を通じて青少年に提供しました。</p> <p>(1) 利用日数：254日（利用稼働率：86.1%） (2) 利用件数：569件 28,339人 (3) 宿泊利用日数：209日（宿泊利用稼働率：76.8%） (4) 宿泊件数：404件 20,537人</p>	E-I-3
<p>2 講座・研修会</p> <p>青少年活動団体のリーダーが、プログラムを企画・進行できるような講習会（スキルアップ講習会）や、利用団体を対象とした定期的なワークショップ（横濱野島カリー、クラフト、食育関連、宿泊者向けワークショップ）を開催しました。</p> <p>(1) スキルアップ講習会 青少年活動におけるスキルの提供を通じて、青少年団体のリーダーがプログラムの企画進行ができるような講習会を実施しました。</p> <p>① カヌー講習会、海苔作り講習会 会場：野島公園、野島海岸、他 参加者数：39人</p> <p>② 野島ワークショップ 利用団体を対象とした食・自然に関するプログラムを実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横濱野島カリー 参加者数：2,988人 ・のじぼっくり 参加者数：421人 ・のじたまくん 参加者数：140人 ・バードコール 参加者数：671人 ・食育 参加者数：135人 <p>（こどもトライアスロンに参加した世界の子どもたちも横濱野島カリーを体験しました。）</p> <p>(2) 親子クッキングキャンプ 食育事業として、横浜マイスターである西洋料理の清水郁夫さんを講師にむかえ、小学校4年生から中学校3年生の親子を対象とした1泊2日のキャンプを実施しました。また、今年度は自立支援が必要な若者の就労体験の場としても実施しました。</p> <p>開催日：2月27日（土）から28日（日） 1泊2日 会場：横浜市野島青少年研修センター、野島公園周辺 参加者数：親子参加者15人（自立支援塾：17人） 内容：食材選び、買い物、食育トーク・ディナー作り、他</p>	D-II、E-I-3
<p>3 相談業務</p> <p>施設を利用する団体がより充実した研修を行えるよう、利用団体への情報提供、活動プログラムの相談などを通して充実した宿泊体験を支援しました。</p> <p>(1) 体験学習説明会 開催回数：全4回（5月28日（木）・9月24日（木）・1月28日（木）・2月25日（木）） 参加校数：86校</p> <p>(2) 一般団体抽選会 開催回数：11回（毎月第2日曜日） 参加団体数：193団体</p> <p>(3) 一般団体事前打ち合わせ会 開催回数：36回（毎月第1から3土曜日） 参加団体数：404団体</p> <p>(4) 視察等の個別対応 年間件数：112件</p>	E-I-3

事業名（指定管理事業：研修センター）	区分
4 備品貸出業務 施設の備品の貸し出しを通して、利用者の施設内における活動の充実を図りました。 今年度は機材の更新や使用説明等の適切なサービスを中心に実施し、利用者の満足度向上の一助となりました。	E-I-3
5 野島ふれあいランド 施設と研修センターのノウハウを提供し、遊びを中心に地域の青少年の育成と異年齢間の交流を促進しました。 開催回数：毎月1回（原則として第4土曜日）（全12回） 内 容：こいのぼりを作ろう、スイカ割り、ペットボトルロケット、もちつき、他 参加者数：528人 活動ボランティア：43人 合計：571人	E-I-3
6 野島ボランティアスタッフ育成 野島の周辺環境や施設を活かした定期的な研修活動を行い、青少年育成・ボランティア活動について学び、ボランティア同士・また利用者に関わり合いを持つことで青少年への関心を高め、青少年活動が実践できるボランティアスタッフを育成しました。 (1) 野島ボランティアスタッフ 登録人数：16人 活動回数：36回 活動内容：主催事業補助、夏季ボランティア活動、他 (2) ボランティア説明会 開催回数：1回 会 場：横浜市青少年交流センター 他 内 容：センターの紹介、活動の紹介	D-IV, E-I-3
7 バードウォッチングin野島（共催） 金沢区野島海岸を訪れる「冬鳥の観察」を通じて、自然環境保護への興味と関心を高めました。また、この活動を通じて市民団体と地域の人々が交流し、地域活動に目を向けるきっかけを作りました。 開催日：2月20日（土）～21日（日） 会 場：横浜市野島青少年研修センター、野島公園、長浜公園 内 容：冬鳥の観察会 参加者数：72人 主 催：バードウォッチングin野島実行委員会	E-I-3
8 オールクリーン野島ビーチ2009（共催） 身近な自然を保全するため、野島を拠点に活動するボランティア・市民活動団体と協働で横浜市内に唯一残る自然の砂浜「野島海岸」を清掃しました。 開催回数：3回（6月20日（土）、9月19日（土）、1月16日（土）） 会 場：野島海岸 内 容：海岸清掃、海辺の生き物観察 参加者数：426人 主 催：オールクリーン野島ビーチ実行委員会	E-I-3

事業名（指定管理事業：研修センター）	区分
<p>9 金沢水の日実行委員会への参加・支援</p> <p>自然の水環境豊かな金沢区内の「平潟湾」周辺の水辺で活動する市民活動団体が集まり、金沢の豊かな水環境をより健全な姿で次世代に引き継ぐためのイベントを実施しました。</p> <p>開催日：3月14日（日）</p> <p>会場：横浜市野島青少年研修センター、野島公園、他</p> <p>内容：海岸清掃、エコマネー体験、クラフト、塩作り、他</p> <p>参加者数：350人（参加団体数：10団体）</p> <p>主催：金沢水の日実行委員会</p>	E-I-3
<p>10 野島カヌー体験教室</p> <p>研修センター利用者に対し、野島の海浜を利用した自然体験プログラムとして、金沢スポーツクラブと共催でカヌー体験教室を実施しました。</p> <p>実施期間：夏休み期間を除く毎週土曜日および8月18日(火)19日(水)、10月25日(日)、3月14日(日) 全28回</p> <p>参加者数：268人</p>	D-III, E-I-3
<p>11 厨房を使った日帰り事業</p> <p>横浜野島カリー、もちつき等、厨房を使用した日帰り事業を実施し、施設の利用促進を図りました。</p> <p>開催回数：4回（7月13日(月)、11月8日(日)、11月21日(土)、1月11日(月祝)）</p> <p>参加者数：302人 4団体</p>	E-I-3
<p>12 放課後児童育成事業と連携したキャンプ（自主事業）</p> <p>放課後キッズクラブ等と協働で宿泊キャンプを行い、集団生活を通じて参加者同士のふれあいを深め、自立心・協調性を深めました。</p> <p>開催日：8月7日(金)桜井小、8月24日(月)太田小、 10月9日(金)能見台小・権太坂小・折本小、12月18日(金)南瀬谷・本町小</p> <p>会場：横浜市野島青少年研修センター、野島公園、他</p> <p>内容：宿泊体験、キャンドルファイア、野外プログラム、他</p> <p>参加者数：195人</p>	E-I-3
<p>13 プログラム研究・開発事業</p> <p>施設環境やプログラムの内容充実、職員のスキルアップ向上などを図り、利用者の満足度の向上に努めました。</p>	E-I-3
<p>14 野島自立支援プログラム「若者自立サポート事業」（新規）</p> <p>若者の自立支援に取り組む団体の宿泊を受け入れ、アウトドアやボランティア活動等のプログラムを提供し、若者の自立支援をサポートしました。</p> <p>(1) 横浜型若者自立塾活動支援 9月10日(木)～16日(水) 参加者：14人(スタッフ含む)</p> <p>(2) 相談センター宿泊体験支援 11月28日(土)～29日(日) 参加者：37人(スタッフ含む)</p> <p>(3) ハートフルスペース宿泊体験 12月3日(木)～4日(金) 参加者：83人(スタッフ含む)</p> <p>(4) 野島クリスマスキャンプ支援 12月12日(土)～13日(日) 参加者：173人(スタッフ含む)</p> <p>(5) 相談センター宿泊体験支援 2月24日(水)～25日(木) 参加者：7人(スタッフ含む)</p>	B-IV, E-I-3

事業名（指定管理事業：研修センター）	区分
15 運営の検証と改善	E-I-3
<p>研修センター利用者に対してアンケート調査を実施し、その結果をサービスの向上や設備の改善に反映しました。</p> <p>(1) 施設利用アンケート（センターを利用して目的は達成されたか？） 実施期間：4月から3月 回答数：275団体（回収率68.0%） 集計結果：達成率98.8%</p> <p>(2) 横濱野島カリーアンケート 実施期間：5月から11月 回答数：34団体（回収率79.6%） 集計結果：満足度97.9%</p> <p>(3) 親子クッキングキャンプアンケート 実施期間：2月27日（土）から2月28日（日） 回答数：24組（回収率100%） 集計結果：満足度：100%</p>	
16 その他の共催事業（自主事業）	E-I-3
<p>野島自然観察探“屍”隊をはじめ、関係団体と共催して事業を実施しました。</p> <p>(1) 野島自然観察探“屍”隊支援 通年（事務局支援、プログラム支援）</p> <p>(2) オール関東教育フェスタ支援 3月4日（木）～7日（日）（プログラム企画、活動支援） 参加者：219人</p>	

4 横浜こども科学館

事業名（指定管理事業：科学館）	区分
1 展示物の提供、維持、開発、改良	DI, II, EI
<p>常設展示物(200点余)の多くは10年から20年を過ぎているため、日々のきめ細かいメンテナンスや性能をより高めていくための研究を行い、性能の維持・向上に努めました。</p> <p style="text-align: right;">（年間入館者数：264,826人）</p> <p>(1) 展示室の提供、維持 展示物の操作案内/展示物の機能維持/定期点検/日常点検保守/図書・ビデオソフト収集・管理・提供/情報端末メニュー整備、提供。</p> <p>(2) 展示物の開発・改良 展示物の操作性・安全性の向上/展示更新/展示室の運営形態・展示手法の検討 展示物の改良・更新：12点</p>	
2 開館25周年記念 ニュートンのりんごの木	
<p>「ニュートンのりんごの木」の植樹により、科学館25周年を盛り上げ、集客効果を高めるため、ゴールデンウィークに「りんご」をテーマにイベントを実施しました。</p> <p>(1) りんごメッセージ 開催日：4月24日（金）～5月10日（日） 参加者：1,553人</p> <p>(2) りんごポイントで缶バッジ 開催日：5月3日（日）～6日（水祝）10日（日） 参加者：1,404人</p>	

事業名（指定管理事業：科学館）	区分
(3) スチロールコップメダル ※P31「8 ゴールデンウィーク・夏休みイベント等」を参照 (4) 「ニュートンのりんごの木」がやってくる 開催日：5月10日（日） 参加者：120人	
3 宇宙劇場の管理運営	D-I, II, E-I
<p>プラネタリウム番組内容の充実を図り、入館者・入場者の増加に取り組みました。また、宇宙劇場の保守管理を行い、プラネタリウムの安定稼働に努めました。</p> <p>（入館者の約53.6%が、プラネタリウム番組をご覧になりました。年間入場者数：141,973人）</p> (1) 一般投影番組の投影、及び制作 ①『銀河鉄道の夜』：投影回数5回、入場者数259人 ②『横浜から宇宙へ』：投影回数477回、入場者数29,135人 ③『ダイナソーDX』：投影回数414回、入場者数40,037人 (2) ちびっ子プラネタリウムの投影、及び制作 ①『ポケットモンスター』：投影回数15回、入場者数1,751人 （以上、4月5日までの投影） ②『しまじろうのほしぞらだいすごろく』 投影回数697回、入場者数50,480人 (3) 学習用プラネタリウム番組の投影 投影回数147回、入場者数20,311人 (4) 夜間延長投影 投影回数7回、入場者数132人 (5) 放課後児童プラネタリウム投影 投影回数7回、団体数12（入場者数296人）	
4 夏休み特別展	D-I, II, E-I
<p>夏休みの来館者に、常設展示では展開していないジャンルで科学に親しむ機会を提供するため、普段目にすることのない珍しい大型昆虫の標本などの展示により、昆虫に対する興味を深めてもらう機会を提供しました。</p> (1) 開館25周年記念夏休み特別展「昆虫ワールド」（国立科学博物館巡回展） 内 容：昆虫の暮らしを体験（ハチの巣、アリの巣、クモの巣）「大型昆虫の標本」 「海野和男氏写真パネル」「トンボとアゲハの頭部巨大模型」および「昆虫に関する情報パネル」の展示。 実施期間：7月18日（土）～8月31日（月）45日間 期間中入館者：67,978人	
5 夏休み・年末年始特別プログラム	D-I, II, E-I
<p>来館者に科学の楽しさ、おもしろさを体験し、興味を持ってもらえるような科学実験ショウの開発・改良を行い、来館者に提供しました。また、子どもの長期休みに対応したイベントを開催し、来館者増に対策を行いました。</p> (1) 夏休み特別プログラム 「真夏のかがかん座」 5階キャプテンアターで、自由に観覧できる実験ショウ、実験ショウと工作の融合、大道芸と実験ショウの融合、「工作サマーキッズ！」など参加者と一体になった楽しい参加型ステージや工作教室をバラエティ豊かに毎日開催 内 容： ①ステンドグラス 8月4日（火）～8月9日（日） 参加者：715人 ②四角こま 8月4日（火）～8月9日（日） 参加者：302人 ③バードコール 8月18日（火）～8月23日（日） 参加者：706人 ④スーパーボール 8月18日（火）～8月23日（日） 参加者：316人 ⑤その道のプロ 8月2日（火） 8月9日（日） 8月16日（日） 8月23日（日） 参加者：1,155人	

事業名（指定管理事業：科学館）	区分
<p>(2) 年末特別プログラム「クリスマス・サイエンスショウ 蜜ろうのキャンドル作り」 内 容：5階キャブテンシアターで、ろうそくについてのミニ実験ショウ(10分)とキャンドル作りを開催 実施期間：12月20日（日）23日（水祝）12月24日（木） 参加者数：165人</p> <p>(3) セタディスプレイ 6月18日(木)～7月7日(火)</p> <p>(4) クリスマスディスプレイ 11月20日(金)～12月25日(水)</p>	
<p>6 科学実験ショウ</p>	<p>D-I, II, E-I</p>
<p>科学の楽しさ、おもしろさをライブで体験できるよう、5階キャブテンシアターで毎月演目を変えてサイエンスショウを、また2階スペースラボでは、いろいろなテーマのミニ実験ショウを実施しました。</p> <p>(1) 「科学実験ショウ・サイエンスショウ」（全11演目） 内 容：参加性を重視した体験型科学実験ショウ 「だるまおとし」「冷たいはなし」「あんなカサこんなカサ」「しゃぼん玉」「ブーメラン」 実施期間：4月1日（水）から3月31日（水） 618回開催 参加者数：23,455人 ※今年度より試行的に幼児対象の科学実験工作プログラム「サイエンスみにっと」を実施した。</p> <p>内 容：「空気砲」「ブーメラン」「慣性ゲーム」「風船電話」「音のふしぎ」 実施期間：4月1日（火）から3月31日（火） 平日：1回実施 ※8月は実施せず</p> <p>(2) 「科学実験ショウ・ラボミニ実験」 内 容：身近なテーマと実験用具で行うミニ実験 「ハイテクじゃんけん」「シャボンまく」「魔法のいろみず」「くっつけ磁石」 「音と波」「ビデオマイクロスコープ」 実施期間：4月1日（水）から3月31日（水） 668回開催 参加者数：10,020人</p>	
<p>7 企画展</p>	<p>D-I, II, E-I</p>
<p>特別展示室にて年間を通して企画展を実施しました。常設展示とは異なるテーマや展示形態をとり、様々な角度から科学のふしぎ、おもしろさに触れる機会を提供しました。</p> <p>(1) 企画展 魔法の板・カプラ～つんで、つんで、なにつくる？ 内 容：木製造形ブロック“カプラ”＝同一のサイズの小さな木板を、自由な発想で自在に組み合わせることで、さまざまな作品を生み出す。楽しく遊びながら、構築力、集中力、指先の器用さなどを養うことができる。 実施期間：平成21年3月20日（金祝）～6月14日（日） 80日間（うち平成21年度は68日間開催） 期間中入館者：52,106人（前年度を含めた入館者数：66,281人） ※ワークショップ：136回 714人</p> <p>(2) 企画展 3D！脳と目のびっくり展 内 容：【展示物】 ① 科学館所蔵3D関連展示物（国立天文台MITAKA赤青画像、各種手持ちステレオビューア、凹面の顔など） ② 立体視の原理：視覚のしくみ、脳の機能、錯覚現象など…全期間3Dコレクション ③ 各種3D映像、各種ディスプレイなどの展示…22の企業、研究機関、大学等との協働 【科学講演会】脳に挑戦！3D立体映像のいま 参加者：69人 【ワークショップ】 ① 3D デジカメ立体写真（計3回） 参加者：28組 92人 ② 3D トーク（計3回） 参加者：37人 ③ 凹凸反転錯視を作ろう（計2回） 参加者：27人 ④ 空間映像楽器 参加者：156人 ⑤ ウェブカメラMinoruで3Dを作ろう 参加者：47組 91人 ⑥ 3D立体プログラムを作ってみよう（計2回） 参加者：22人 ⑦ お絵かき式2D／3DコンバータSTPAINT（計8回） 参加者：190人 ⑧ みにドーム3D（3日間限定出展） 参加者：300人 実施期間：平成21年10月10日（土）～平成22年1月11日（月・祝） 80日間 期間中入館者：43,399人 企画協力：3次元映像のフォーラム</p>	

事業名（指定管理事業：科学館）	区分
<p>(3) 企画展「ピンホールカメラと◇キラリ◇光のあそび展」 内 容：①ピンホールカメラで撮影した写真45点の展示 ②手作りピンホールカメラ等の展示 ③光に関する実験装置および展示物 実施時期：平成22年3月6日（土）～3月31日（水）25日間 期間中入館者：23,167人 協 力：日本針穴写真協会 市民ギャラリーあざみ野</p>	
<p>8 ゴールデンウィーク・夏休みイベント等</p>	D-I, II, E-I
<p>来館者が多いゴールデンウィークと夏休みに、幅広い年齢層に対応したワークショップ形式の参加型のイベント「サイエンスバザール」を実施しました。また、今年度はシルバーウィーク期間にも秋のサイエンスバザールを実施し、楽しい科学館を演出しました。</p> <p>(1) 「スチロールコップメダル作り」 実施期間：5月3日（日）～6日（水・祝） 4日間 参加者数：983人</p> <p>(2) 「スライムを作ろう」 開催日数：8月25日（火）～30日（日） 6日間 参加者数：2,037人</p> <p>(3) 「秋のサイエンスバザール 作ろう！遊ぼう！」 ①紙コップけんだまで遊ぼう 9月19日（土）～27日（日） 参加者：265人 ②カエルぴよんで遊ぼう 9月19日（土）～27日（日） 参加者：388人 ③ぶんぶんごまを作ろう 9月19日（土）～27日（日） 参加者：330人 ④飛べヘリコプターを作ろう 9月19日（土）～27日（日） 参加者：122人 ⑤オープン粘土のマグネットおもちゃを作ろう 9月19日（土）～27日（日） 参加者：118人 ⑥割り箸鉄砲を作ろう 9月26日（土）～27日（日） 参加者：100人 ※ボランティア自主企画</p>	
<p>9 コンピュータ教室</p>	D-I, II, E-I
<p>小学生を対象としたプログラミング技法を楽しく学ぶための教室などをはじめとして、今年度は新たにロボット教室を実施しました。</p> <p>(1) 虫型ロボットでプログラミングに挑戦 実施期間：4月19日（日）、6月14日（日）、7月12日（日）、3月21日（日） 参加者：34人</p> <p>(2) プログラミング入門迷路パズルで遊ぼう 実施期間：5月10日（日）、6月28日（日）、9月6日（日）、3月7日（日） 参加者：69人</p> <p>(3) ブロックロボットに挑戦 実施期間：1月1日（日）、12月6日（日）、1月10日（日） 参加者：48人</p> <p>(4) PCワークショップ 2月20日（土）～21日（日） 参加者：52人</p> <p>(5) エスティ・ペイント 3月26日（金）～28日（日） 参加者：168人</p>	
<p>10 体験スタジオ</p>	D-I, II, E-I
<p>1時間程度でできる簡単工作や科学遊びを通して科学体験できる場を提供しました。参加希望の多い小学校低学年以上を対象とし、気軽に参加できるように当日受付など対応を工夫しました。</p> <p>(1) エコーメガホンを作ろう 6月6日（土）7日（日）20日（土）21日（日） 4日間 参加者：231人 (2) 万華鏡を作ろう 7月5日（日）28日（火）～30日（木） 4日間 参加者：1,199人 (3) マジック貯金箱 10月3日（土）4日（日） 2日間 参加者：93人 (4) ばねっこきつき 11月21日（土）～23日（月・祝）3日間 参加者：136人 (5) スポンジくまさん 1月4日（月）～7日（木）4日間 参加者：289人 (6) パラモーション 2月11日（木・祝）14日（日） 2日間 参加者：107人 (7) ガチャポン工作 3月7日（日）14日（日）2日間 参加者：93人</p>	

事業名（指定管理事業：科学館）	区分
<p>11 天文教室</p> <p>天体望遠鏡を自分で製作し、その仕組みや構造を理解する教室の実施や天体を見る観望会を実施し、天文や宇宙に親しむ機会を提供しました。また、放課後児童育成団体を対象に昼の特別投影を実施しました。7月22日の日食観望会は多くの来館者がありましたが、悪天候のため日食が見られず、テレビ中継による日食や資料展示を楽しんでもらいました。</p> <p>(1) 天文教室</p> <p>① 望遠鏡工作教室：8月1日（土）、29日（土）、10月31日（土）、11月28日（土） 4回 参加者数 124人 協力：県立柏陽高校理科部</p> <p>② 観望会：5月2日（土）、3日（日）、9月26日（土）、3月21日（日） 4回 参加者数 1,113人</p> <p>(2) 開館25周年記念講演会「日食をみよう」：7月22日（水） 参加者数：750人 ボランティア：11人</p>	D-I, II, E-I
<p>12 宇宙劇場特別事業（自主事業）</p> <p>宇宙劇場を利用して、コンサートや講演会等を実施し、自主財源の確保に努めました。</p> <p>(1) 開館25周年記念講演会「日食！太陽がかけちゃうの？」6月27日（土）参加者264人</p> <p>(2) 七夕特別投影『星にとどけ みんなのねがい』 7月4日（土） 参加者124人</p> <p>(3) 星空のXmasコンサート（ハープとフルートの生演奏）12月23日（水祝） 参加者179人</p> <p>(4) ファミリーコンサート～春の星空さんぽ～ 3月27日（土） 参加者98人</p>	D-I, II, E-I
<p>13 サイエンスキャンプin野島</p> <p>青少年に野外での自然観察等を通して科学知識の普及を進めるとともに、宿泊体験を通じた集団活動の機会を提供するため、野島青少年研修センターと連携して実施しました。</p> <p>内 容：天体観測、キャンドルファイヤ、ハイキング、科学実験工作、他</p> <p>実施時期：3月26日（金）から3月28日（日）（2泊3日）</p> <p>参加者数：48人（小学生37人、中学生11人） ボランティア：17人</p>	D-I, II, E-I
<p>14 地域連携事業「洋光台サイエンスクラブ」</p> <p>地域や市民活動団体やボランティアと連携し、近隣地域の子どもたちを対象とした様々な教室や催しを実施し、科学への興味関心の促進を図りました。</p> <p>主な教室：「信号機」「ヘリコプター」「すもうロボット」「空気の重さ？圧力のふしぎ」 「ヘロンの噴水」「太陽熱風車 風力発電機」「風力車」「ゲジゲシUF0」「静電気モーター」 「ICラジオ」「オーディオ教室」 他</p> <p>(1) 実験工作教室 4月18日（土）5月16日（土）6月20日（土）， 7月18日（土）9月19日（土）10月17日（土）， 11月21日（土）12月19日（土）1月16日（土）， 2月20日（土）3月20日（土） 参加者数：232人</p> <p>(2) 環境自然教室 6月27日（土）7月11日（土）8月3日（月）， 8月25日（火）2月13日（土） 参加者数：116人</p> <p>(3) 電波教室 10月24日（土）1月23日（土） 参加者数：35人</p> <p>(4) オーディオ教室 6月13日（土）9月12日（土） 参加者数：58人</p> <p>(5) 施設見学 7月4日（土） 参加者数：21人</p> <p>(6) クラブ特別教室 5月30日（土） 参加者数：20人</p>	D-I

事業名（指定管理事業：科学館）	区分																		
<p>15 広報出版事業</p> <p>科学情報紙や科学館事業案内情報等を発行して、青少年の科学への興味を呼び起こすとともに科学館のPRを行いました。</p> <p>(1) 科学情報紙「みみよりサイエンス」の発行 年4回 40,000部/4回</p> <p>(2) 事業案内ポスター、チラシの発行 ポスター 2,640部 チラシ 26,000部</p> <p>(3) ホームページによる情報提供 訪問総数 458,063件</p> <p>携帯電話サイト検索件数サービス開始 12/16～3月末までの閲覧数 4,458件</p>	D-I, II, E-I																		
<p>16 科学体験活動推進スタッフ養成研修</p> <p>科学知識、技術を持った人材を発掘し、指導者養成研修を通して科学体験活動推進スタッフを養成しました。</p> <p>(1) 科学体験活動インストラクター養成研修<NPO法人おもしろ科学たんけん工房と共催></p> <p>内 容：オリエンテーション、おもしろ科学体験塾の現場実習 他</p> <p>実施時期：前期6月14日（日）～11月14日（土） 後期10月14日（水）～3月17日（水） ※同一内容で2講座実施</p> <p>参加者数：29人（前期17人、後期12人）</p> <p>(2) 科学館ボランティア（通年）</p> <table border="0"> <tr> <td>① サイエンスキャンプボランティア</td> <td>活動日数：21日間</td> <td>延べ参加者数：186人</td> </tr> <tr> <td>② ワゴンワークショップ</td> <td>活動日数：15日間</td> <td>延べ参加者数：54人</td> </tr> <tr> <td>③ 事業ボランティア</td> <td>活動日数：44日間</td> <td>延べ参加者数：89人</td> </tr> <tr> <td>④ 天文ボランティア</td> <td>活動日数：17日間</td> <td>延べ参加者数：54人</td> </tr> <tr> <td>⑤ 展示ボランティア</td> <td>活動日数：0日間</td> <td>延べ参加者数：0人</td> </tr> <tr> <td>⑥ 地域連携教室ボランティア</td> <td>活動日数：2日間</td> <td>延べ参加者数：20人</td> </tr> </table>	① サイエンスキャンプボランティア	活動日数：21日間	延べ参加者数：186人	② ワゴンワークショップ	活動日数：15日間	延べ参加者数：54人	③ 事業ボランティア	活動日数：44日間	延べ参加者数：89人	④ 天文ボランティア	活動日数：17日間	延べ参加者数：54人	⑤ 展示ボランティア	活動日数：0日間	延べ参加者数：0人	⑥ 地域連携教室ボランティア	活動日数：2日間	延べ参加者数：20人	D-I, II, E-I
① サイエンスキャンプボランティア	活動日数：21日間	延べ参加者数：186人																	
② ワゴンワークショップ	活動日数：15日間	延べ参加者数：54人																	
③ 事業ボランティア	活動日数：44日間	延べ参加者数：89人																	
④ 天文ボランティア	活動日数：17日間	延べ参加者数：54人																	
⑤ 展示ボランティア	活動日数：0日間	延べ参加者数：0人																	
⑥ 地域連携教室ボランティア	活動日数：2日間	延べ参加者数：20人																	
<p>17 指定管理付帯事業</p> <p>科学館の売店・利用者用駐車場、及び喫茶室の管理運営を、利用者の利便・サービス向上ならびに自主財源確保を目的として行いました。</p>	F-I																		
<p>18 学芸員実習</p> <p>各大学の学芸員養成課程に必要な施設実習の要望に対応し、実施しました。学芸員・科学館の理解者を育成するとともに、実技を通じて科学の普及・啓発活動を行いました。</p> <p>内 容：座学、実技、まとめ 評価</p> <p>実施時期：7月2日（木）～3日（金）《座学》 8月2日（日）～9日（日）《A日程》、8月16日（日）～23日（日）《B日程》 8月17日（月）、25日（火）～30日（日）《C日程》</p> <p>実 習 生：15人（A日程：4人、B日程：4人、C日程：7人）</p>	D-I, II, E-I																		
<p>19 運営の検証と改善（来館者アンケート、公募モニターによる評価制度）</p> <p>来館者アンケート調査では来館者のニーズや動向の意識調査を行いました。</p> <p>来館者の要望や傾向を把握し、科学館運営に役立てるため、入館者の意識調査を実施しました。</p> <p>実施日：8月16日（日）17日（月）27日（木）29日（土） 4日間 回答数：581人</p> <p>なお、事業ごとにアンケートを実施し、参加者の満足度やニーズなどを把握し、今後の事業運営に反映しました。 事業別アンケート：92回</p>	D-I, II, E-I																		

事業名（指定管理事業：科学館）	区分
20 協働事業の実施	D-I, II, E-I
<p>企業や他団体との協働事業により、多くの青少年に科学体験の機会を提供しました。</p> <p>(1) ㈱横浜銀行「はまぎんサイエンスキッズ」</p> <p>① ブロックで作ったロボットを動かそう！ 開催日：8月17日（月） 参加者：14人</p> <p>② ソーラーカーを作って考えよう！～地球温暖化ってなに？～ 開催日：3月22日（月・祝） 参加者：65人（午前・午後）</p> <p>(2) リコー㈱「コピー機になってみよう！」 開催日：10月11日（日）～12日の2日間 2日間（14回） 参加者：169人</p> <p>(3) 東京電力㈱『夏休み！TEPCO環境・エネルギーパーク』 （「第14回サイエンスグランプリ」神奈川地区入賞作品展示会） 開催日：7月23日（木）～26日（日） 4日間 参加者：2,397人</p> <p>(4) 日本電子㈱ 体験！電子顕微鏡ワークショップ『見るみるミクロ』 開催日：3月29日（月）、30日（火） 参加者：121人 ※29日は横浜サイエンスフロンティア高校生徒による指導</p> <p>(5) 日本IBM㈱「ロボラボ教室」「パワーアップ教室」</p> <p>① 「ロボラボ教室」 10月4日（日） 参加者：14人 ② 「パワーアップ教室」 2月7日（日） 参加者：29人</p> <p>(6) アップルジャパン㈱との協働事業</p> <p>① 「デジカメとパソコンで自分だけのDVDを作ろう」 開催日：10月18日（日） 参加者：6組 *応募者31組あったが、インフルエンザ流行のためキャンセルが多数あった。</p> <p>② 「オリジナルのポストカードを作ろう」 開催日：11月7日（土）8日（日） 参加者：229人</p> <p>③ 「オリジナルの年賀状を作ろう」 開催日：12月12日（土）13日（日） 参加者：176人</p> <p>(7) (財)ソニー教育財団との協働「ソニーフォトコンテスト」の展示 開催日：6月25日（木）～7月15日（水） 20日間 参加者：14,511人</p> <p>(8) (社)日本宇宙エレベーター協会との協働「宇宙エレベーター体験教室」 開催日：2月28日（日） 参加者：21人</p> <p>(9) NPO法人おもしろ科学たんけん工房「おもしろ科学ひろば」 開催日：4月26日（日）～1月24日（日） 主な演目：「ミニホバークラフト」「にじ色万華鏡」「トコトコ人形」「ブーメラン」 「マジックこま」など（10演目 延べ19日間） 参加者：2,210人</p>	
21 学校との連携事業	
<p>事業を通じて各学校との関係づくりを確立し、中・高・大学生の来館を拡大しました。</p> <p>(1) 「コピー機になってみよう」 10月13日（火） 参加者：43人（洋光台第一小学校、第二小学校、第三小学校、第四小学校）</p> <p>(2) 職業体験学習の受入 10月15日（木）1月21日（木）1月28日（木）1月29日（金） 参加者：6人（洋光台第二中学校、日野南中学校、洋光台第一中学校）</p>	

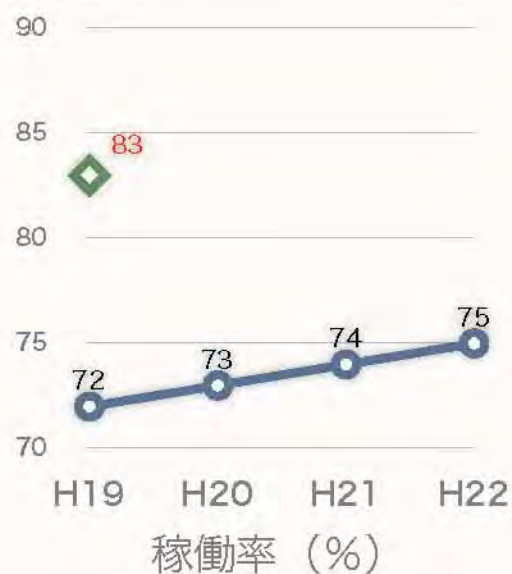
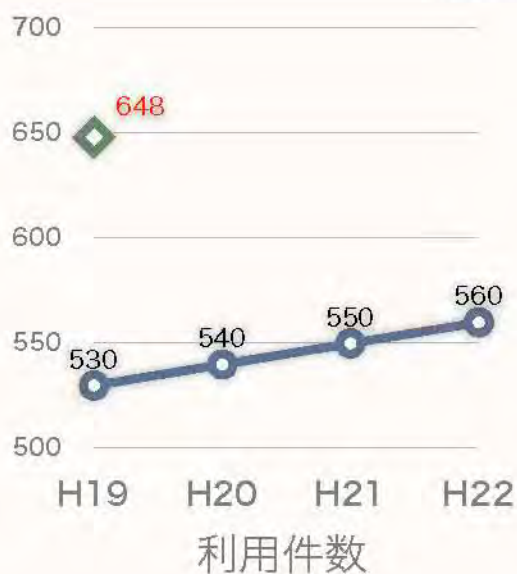
事業名（指定管理事業：科学館）	区分
<p>(3) コンピュータ教室「3D立体プログラムを作ってみよう！」12月13日（日） 参加者：22人（洋光台第二中学校、浜中学校など磯子区内中学校）</p> <p>(4) 湘南工科大学社会貢献活動の受入 5月30日（土）～1月10日（日） 参加者：2人 活動日：延べ28日間</p> <p>(5) 横浜市立横浜サイエンスフロンティア高校との連携事業 ①宇宙劇場の操作実習 開催日：12月18日（金） 参加高校生：8人 入場者数：118人 ②体験！電子顕微鏡ワークショップ『見るみるミクロ』 開催日：3月29日（月） 参加高校生：5人 参加者数：61人</p> <p>(6) 文教大学「ステレオビューアで体験する3D立体仮想世界」の展示 広内哲雄研究室の学生の作品を2階展示室に展示しました。</p>	
22 誘致活動（アウトリーチ事業）	
<p>科学館以外の地域での科学普及ならびに科学館のPRを拡大するため、神奈川県立青少年センターが主催する「子どもサイエンスフェスティバル」において工作教室を実施しました。</p> <p>(1) 県子どもサイエンスフェスティバル県央大会「ぶんぶんごま」 実施日：12月19日（土） 参加者：186人</p> <p>(2) 県子どもサイエンスフェスティバル湘南大会 虹色万華鏡 実施日：1月31日（日） 参加者：300人</p> <p>(3) 県子どもサイエンスフェスティバル相模原大会 ガチャポン工作 実施日：2月11日（木・祝） 参加者：200人</p>	

I 協会運営

2 協約目標の達成【協約事項1】

指定管理者として管理運営を行っている4施設の利用者の増加を図ります。
また、放課後キッズクラブ事業の利用率の増加を図ります。

野島青少年研修センター

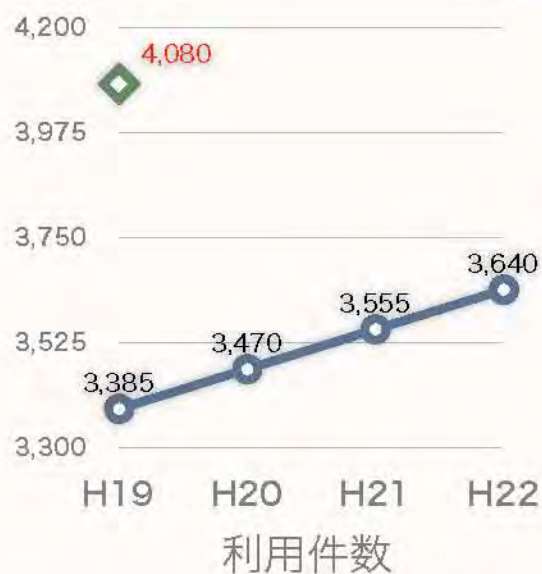


I 協会運営

2 協約目標の達成【協約事項1】

指定管理者として管理運営を行っている4施設の利用者の増加を図ります。
また、放課後キッズクラブ事業の利用率の増加を図ります。

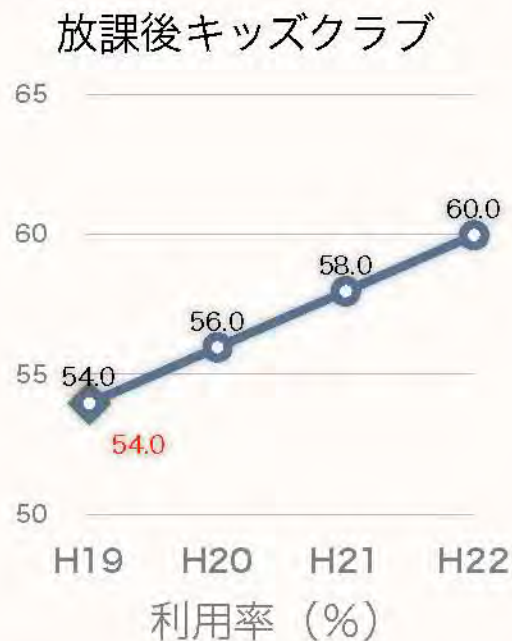
青少年育成センター



I 協会運営

2 協約目標の達成【協約事項1】

指定管理者として管理運営を行っている4施設の利用者の増加を図ります。
また、放課後キッズクラブ事業の利用率の増加を図ります。



I 協会運営

2 協約目標の達成【協約事項2】

青少年の自立支援事業を4事業以上実施します。また、青少年の体験活動に関する相談件数を400件以上（コーディネート件数63%以上）、青少年指導者等の講座への参加者数を380人以上とします。

青少年の自立支援事業



青少年指導者等の活動支援



I 協会運営

2 協約目標の達成【協約事項2】

青少年の自立支援事業を4事業以上実施します。また、青少年の体験活動に関する相談件数を400件以上（コーディネート件数63%以上）、青少年指導者等の講座への参加者数を380人以上とします。

青少年の体験活動の充実



I 協会運営

2 協約目標の達成【協約事項3】

施設利用者及び事業参加者の満足度（目的達成率）を86%以上とします。

施設利用者及び事業参加者の満足度（目標達成率）



I 協会運営

2 協約目標の達成【協約事項4】

ホームページへのアクセス数を130（指数）以上とします。また、利用者の声の一層の反映を図ります。

【協約事項4の平成19年度実績】

青少年育成に関する情報提供を充実し、市民との協働や参画により青少年育成を推進するため、情報を受け取る側のニーズを反映した情報提供方法やガイドライン作成を行う職員プロジェクトを設置し、7月に情報提供ガイドラインおよび運用ルールを策定しました。

また、平成19年度のホームページへのアクセス数を100とした目標指標を定めているため、ホームページのコンテンツごとのアクセス数を把握しました。

I 協会運営

2 協約目標の達成【協約事項5】

自主財源比率を30%以上とします。



平成19年度自主財源比率

$$(A) \text{ 737,180,548} = \text{協会の総収入} \text{ 969,759,748} - \text{キッズ受託収入} \text{ 29,230,000} - \text{キッズ補助金} \text{ 203,349,200}$$

$$(B) \text{ 221,394,548} = (A) \text{ 737,180,548} - \text{指定管理料} \text{ 438,069,000} - \text{事務局補助金} \text{ 77,717,000}$$

$$\text{自主財源比率 } 0.30 = (B) \text{ 221,394,548} / (A) \text{ 737,180,548}$$

I 協会運営

2 協約目標の達成【協約事項6】

職員の意欲を引き出し、事業の充実や職員のスキルアップを図ることのできる新たな組織・人事給与制度を導入します。

【協約事項6の平成19年度実績】

組織・人事給与検討委員会の提言をもとに組織改革のための準備を行いました。

給与制度に関しては、様々な角度から検討をし、人事考課の一つとなる管理職へのMBOを試行的に実施しました。